

第3章

－子どもと大人－

この章では、「三重県子ども条例に基づく調査」の結果をもとに、子どもと大人の意識の違いや大人との関わりと子どもの自己肯定感との関係などをみます。

子どもと家族との関係では、学校などの出来事についてよく話をしていますが、困ったことや悩みについては必ずしも相談できていない状況も見られます。

また、保護者が思っているより、家庭や地域、学校などふだん生活している中で「大切にされている」と感じたり、大人は自分の「意見を聞いてくれている」と答える割合は低く、子どもと大人の意識には差が見られます。

その一方で、「大切にされている」と感じたり「意見を聞いてくれている」と感じるのと「自分のことが好き」と答えることには関係がみられます。

これらのことから、子どもが自己肯定感を高め、夢や将来の希望を持って、自分らしくいきいきと育つためには、地域や家庭、学校などにおける大人の関わりが重要と考えられます。

第3章 第1節 家族との関係

(1) 家族との会話・対話の状況

●学校などでの出来事について「話をしている」子ども・保護者はともに80%以上で、増えている。

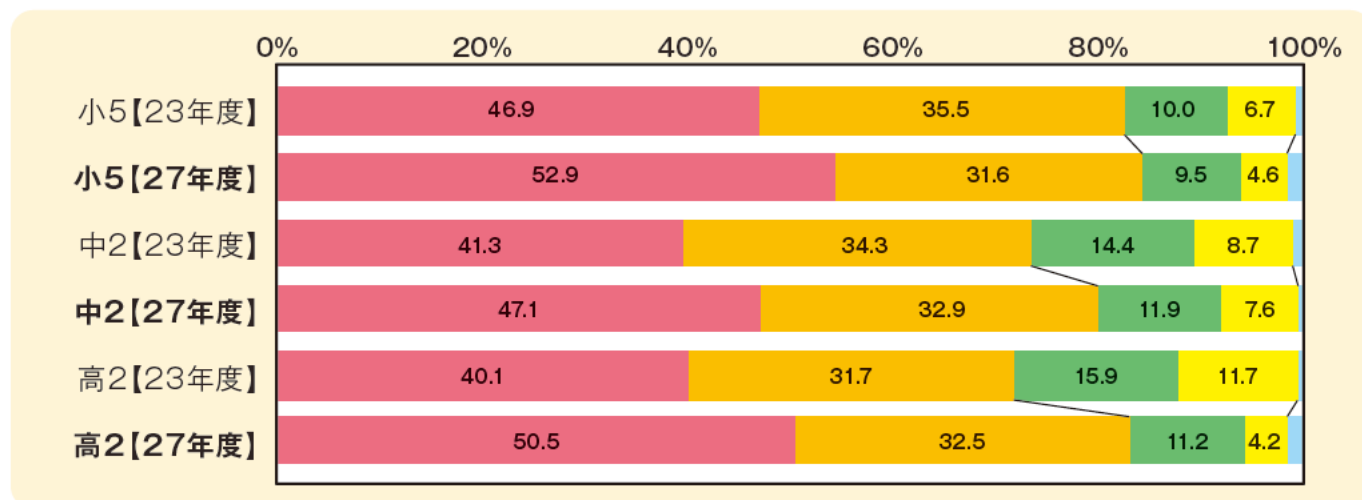
「学校などでの出来事について話をしていますか」という質問に対して、「している」「どちらかといえば、している」と答えた小学生は84.5%、中学生は80.0%、高校生は83.0%で、前回の調査より、小学生は2.1ポイント、中学生は4.4ポイント、高校生は11.2ポイント、それぞれ高くなっています。

また保護者について、子どもと話を「している」「どちらかといえば、している」小学生の保護者は89.2%、中学生の保護者は84.9%で、いずれも前回の調査より高くなっています。

図3-1 学校などでの出来事についての会話(子ども)

Q. あなたは、家の人(兄弟姉妹は含みません。)と学校などでの出来事について話をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ どちらかといえば、していない ■ していない ■ 無回答

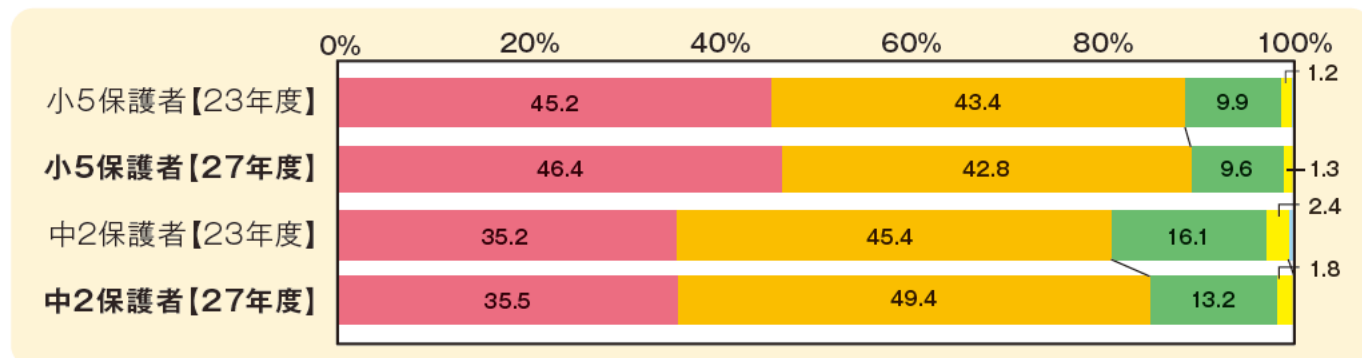


資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図3-2 学校などでの出来事についての会話(保護者)

Q. あなたは、お子さまと学校などでの出来事について話をしていますか。

■ 話している ■ どちらかといえば、話している ■ どちらかといえば、話していない ■ 話していない ■ 無回答



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●「困ったことや悩み」を家の人に話す子どもは増えているが、保護者が思っているほどには相談していない。

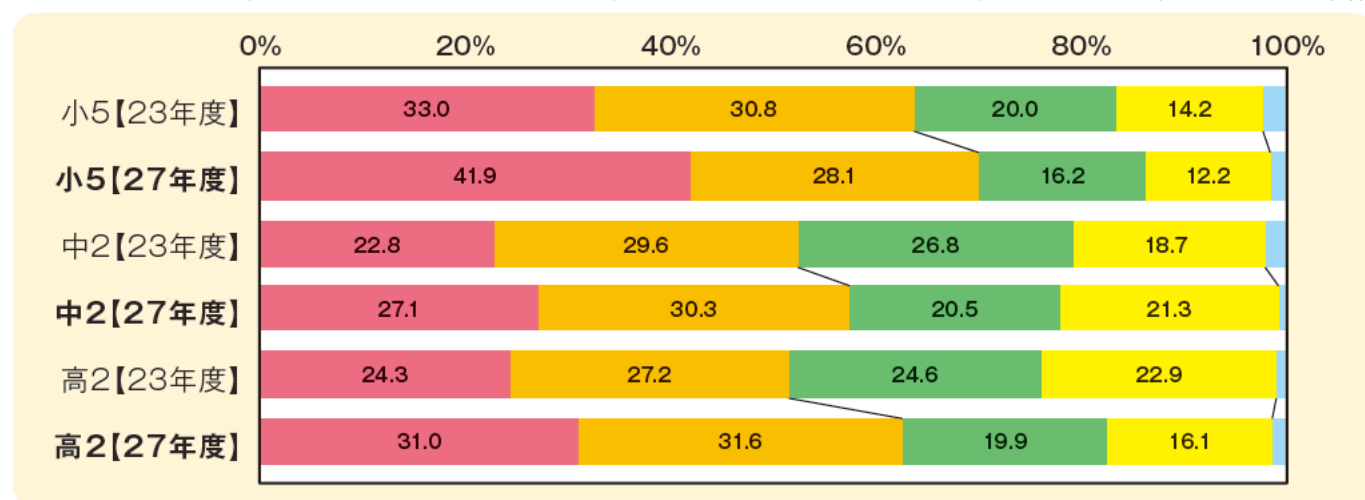
「困ったことや悩みがあったとき、家の人に話をしていますか」という質問に対して、「している」「どちらかといえば、している」と答えた小学生は70.0%、中学生は57.4%、高校生は62.6%で、前回の調査より、小学生は6.2ポイント、中学生は5.0ポイント、高校生は11.1ポイント、それぞれ高くなっています。

一方、「子どもが困ったことや悩みがあったとき、家の人に話をしていると思いますか」という質問に対して、「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた小学生の保護者は89.5%、中学生の保護者は79.1%で、いずれも前回の調査より高くなっていますが、子どもと保護者の意識には差があり、保護者が思っているほどには、子どもは保護者に相談していない状況がうかがえます。

図3-3 「困ったことや悩み」についての子どもの相談

Q. あなたは、困ったことや悩みがあったとき、家の人(兄弟姉妹は含みません。)に話をしていますか。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ どちらかといえば、していない ■ していない ■ 無回答

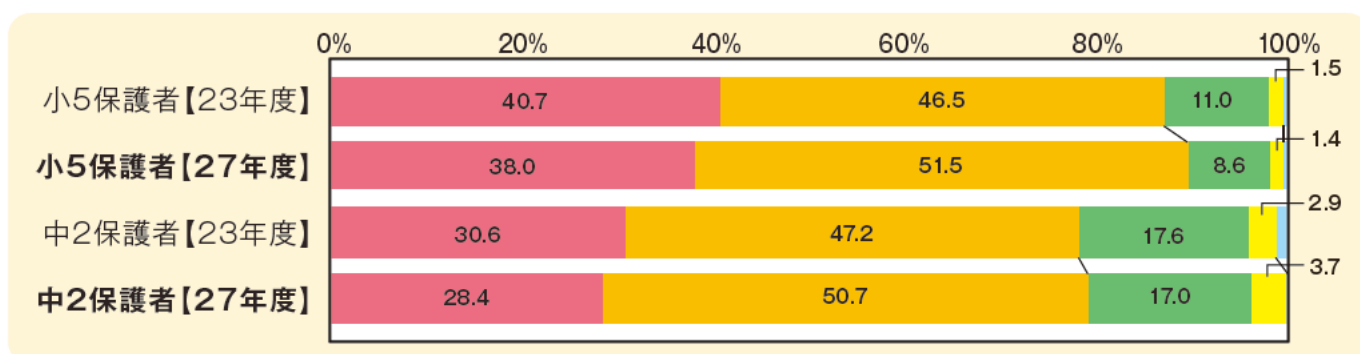


資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図3-4 保護者からみた「困ったことや悩み」についての子どもの相談

Q. あなたは、お子さまが困ったことや悩みがあったとき、あなたや家の人(お子さまの兄弟姉妹は含みません)に話をしていると思いますか。

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、思わない ■ 思わない ■ 無回答



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●家の人に言われていやな気持ちになるのは、小学生は「自分がやりたいことを反対されたとき」、中学生・高校生は「他の人とくらべていろいろ言われたとき」が最も多い。

「家の人にどんなことを言われたときにいやな気持ちになりますか」という質問に対して、最も割合が高くなっているのは、小学生は「自分がやりたいことを反対されたとき」で40.9%、中学生と高校生は「他の人とくらべていろいろ言われたとき」でそれぞれ52.6%、39.3%となっています。

図3-5 家の人に言われていやな気持ちになること

Q. あなたは、家の人(兄弟姉妹は含みません。)にどんなことを言われたときにいやな気持ちになりますか。(複数回答・いくつでも)

項目	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	27年度	23年度	27年度	23年度	27年度	23年度
勉強しろと言われたとき	31.1	31.6	44.4	②44.4	③36.5	31.2
友だちのことで口出しをされたとき	18.4	18.3	33.1	25.2	24.5	25.2
寝る時間、起きる時間、帰る時間、整理整頓など、生活についてあれこれ言われたとき	②39.2	①42.8	②46.1	③41.8	②39.2	②35.6
他の人とくらべていろいろ言われたとき	③35.4	②39.6	①52.6	①47.0	①39.3	①38.7
進路のことをいろいろ言われたとき	8.6	9.3	24.4	24.9	18.9	24.1
自分がやりたいことを反対されたとき	①40.9	③37.6	③44.9	37.2	36.3	③34.4
その他	7.4	7.1	6.3	4.2	4.7	7.6

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

注:①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

●「家の人は、仲の良い友だちの名前を知っていると思う」小中学生と、「子どもの仲の良い友だちの名前を知っている」と思っている保護者はともに90%以上。

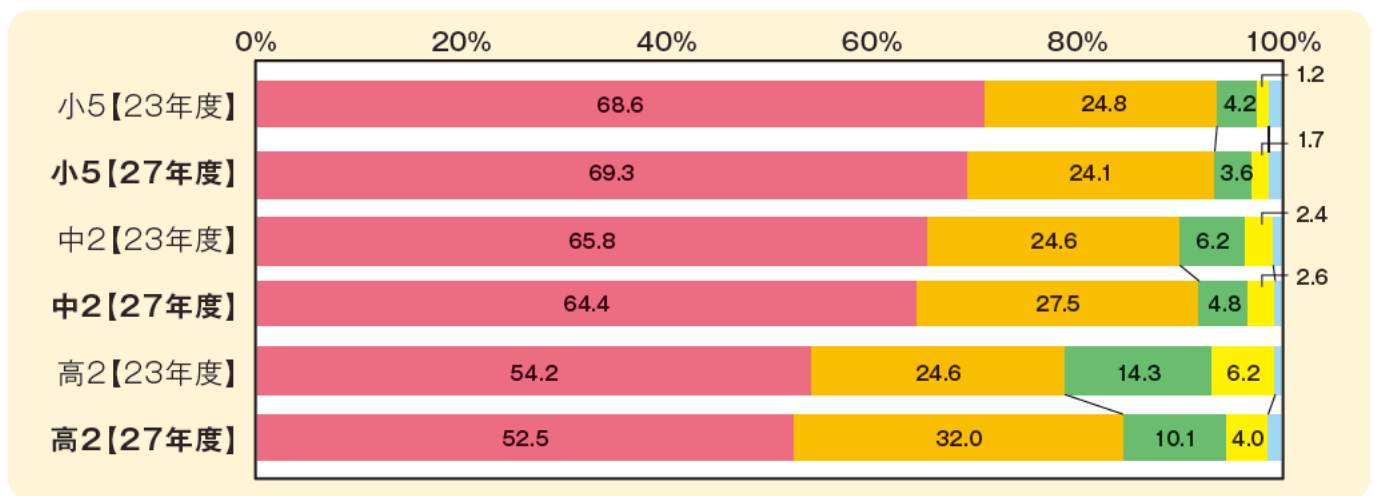
「家の人は、仲の良い友だちの名前を知っていると思いますか」の質問に対して、「知っていると思う」「だいたい知っていると思う」と答えた小学生は93.4%、中学生は91.9%、高校生は84.5%となっています。

また、「子どもの仲の良い友だちの名前を知っていますか」の質問に対して、「知っていると思う」「だいたい知っていると思う」と答えた小学生の保護者は95.1%、中学生の保護者は92.3%となっています。

図3-6 「仲の良い友だちについて」の認識

Q. 家の人(兄弟姉妹は含みません。)は、あなたの仲の良い友だちの名前を知っていると思いますか。

■ 知っていると思う ■ だいたい知っていると思う ■ あまり知らないと思う ■ 知らないと思う ■ 無回答

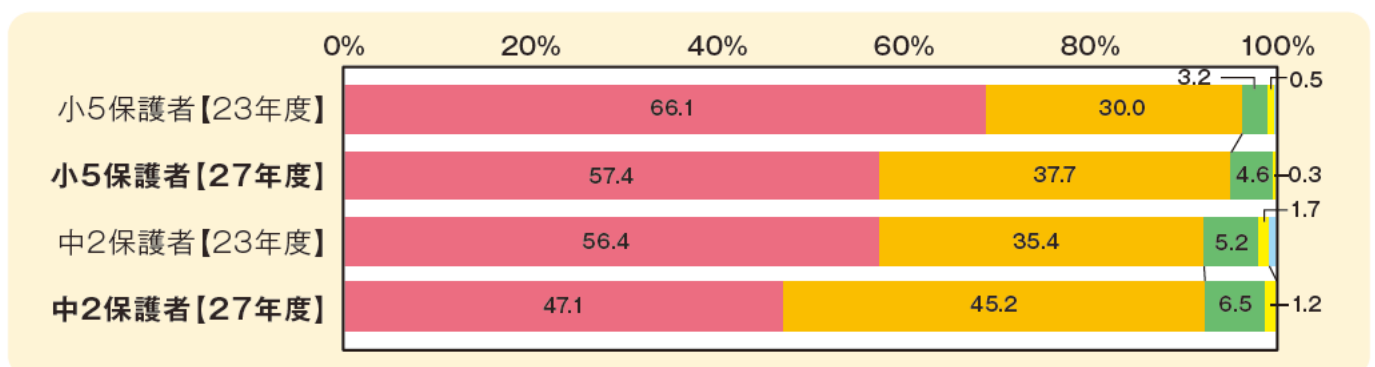


資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図3-7 「仲の良い友だちについて」保護者の認識

Q. あなたは、お子さまの仲の良い友だちの名前を知っていますか。

■ 知っている ■ だいたい知っている ■ あまり知らない ■ 知らない ■ 無回答



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●「ほっとする場所」は、80%以上が「自分の家」。ただし、保護者と子どもの意識には差がある。

「あなたがほっとする場所はどんなところですか」という質問に対して、「自分の家」が小学生は83.4%、中学生は84.7%、高校生は87.9%と最も多くなっています。保護者からみた子どものほっとする場所も「自分の家」が最も多くなっていますが、その割合は小学生の保護者で97.7%、中学生の保護者の96.1%となっており、子どもと保護者の意識には差がみられます。また、小学生では「図書館」と答える割合が、前回の調査より10.6ポイント高くなっています。

図3-8 子どものほっとする場所

Q. あなたがほっとする場所はどんなところですか。(複数回答・3つまで)

項目	(%)					
	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	27年度	23年度	27年度	23年度	27年度	23年度
自分の家	①83.4	①83.7	①84.7	①85.9	①87.9	①84.6
学校	15.5	17.2	③20.9	18.8	③12.7	③14.0
友だちの家	16.7	③19.7	20.5	②17.5	11.8	②17.5
おじいさんやおばあさんの家	②37.5	②35.1	②25.9	②17.5	②17.6	12.0
図書館	③23.7	13.1	13.5	7.8	6.9	5.9
公園	9.6	6.3	5.8	3.3	5.1	3.3
塾	4.3	2.2	5.2	1.8	1.5	0.8
児童館	1.6	1.0	0.4	0.0	0.1	0.1
習い事の教室、スポーツクラブ	8.7	8.5	5.5	3.8	2.2	2.5
フリースクール、フリースペース	0.2	0.0	0.7	0.2	0.3	0.3
コンビニエンスストア	2.5	1.5	4.0	2.2	1.7	1.6
ゲームセンター、カラオケボックス	10.2	8.6	10.4	7.1	6.1	6.6
ファーストフードの店、ファミリーレストラン	2.3	2.8	3.0	2.1	2.0	2.4
その他	6.6	5.4	8.0	5.4	7.2	6.5
とくにない	4.1	1.9	4.4	2.6	4.4	2.4

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

注：①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

図3-9 保護者からみた子どものほっとする場所

Q. あなたは、お子さまがほっとする場所はどんなところだと思いますか。(複数回答・3つまで)

(%)

項目	保護者(小学5年生)		保護者(中学2年生)	
	27年度	23年度	27年度	23年度
自分の家	①97.7	①94.2	①96.1	①94.1
学校	③18.2	③16.1	③19.2	③16.9
友達の家	9.2	10.3	11.2	13.6
祖父母の家	②47.6	②37.9	②30.8	②26.2
図書館	4.8	3.4	3.1	2.2
公園	6.1	3.7	1.0	0.6
塾	0.8	1.0	3.0	2.4
児童館	0.8	0.5	0.2	0.1
習い事の教室、スポーツクラブ	9.7	9.8	6.0	8.3
フリースクール、フリースペース	0.0	0.0	0.1	0.4
コンビニエンスストア	0.3	0.0	0.5	0.2
ゲームセンター、カラオケボックス	2.2	1.8	2.1	1.4
ファーストフードの店、ファミリーレストラン	0.9	0.8	0.6	0.9
その他	2.5	1.4	2.1	3.1
特にないと思う	0.1	0.0	0.7	0.3
わからない	0.6	0.2	1.0	0.6

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

注:①.②.③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

(2) 子どもに関する保護者の悩み

●保護者の子どもに関する悩みは、「子どもの成績や進学」が最も多い。

「子どもについてどのような不安や悩みがありますか」という質問に対して、「子どもの成績や進学」と答えた小学生の保護者は47.1%、中学生の保護者は69.2%で最も高く、次いで「子どもの友達関係」「子どもの育て方やしつけ」の順となっています。

図3-10 子どもに関する保護者の悩み

Q. あなたは、今、お子さまについてどのような不安や悩みがありますか。(複数回答・いくつでも)

項目	(%)			
	保護者(小学5年生)		保護者(中学2年生)	
	27年度	23年度	27年度	23年度
子どもの健康	24.8	24.3	24.3	20.8
子どもの成績や進学	①47.1	①42.8	①69.2	①73.9
子どもの友達関係	②42.8	③36.1	②34.8	②28.2
子どもの生活態度	24.8	26.5	27.0	23.7
子どもの就職	7.9	11.1	13.2	18.5
子どもの育て方やしつけ	③41.2	②41.8	③28.3	③25.6
子どもとあなたとの関係	6.8	—	5.8	—
子どもと配偶者との関係	4.1	4.8	4.9	3.5
子どもと先生との関係	8.0	4.7	6.1	7.3
教育費	21.7	17.7	21.4	20.2
その他	2.3	1.9	1.9	1.3
特に悩みはない	14.8	15.3	9.7	9.0

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

注:①.②.③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

注:前回には「子どもとあなたとの関係」の選択項目はありません。

(3) 子どもの育ちにおける保護者の役割

●保護者の役割は、「心の安らぎを与える」や「夢や希望を応援する」、「心身の成長を支える」が上位。

「子どもがいきいきと育つために、あなたはどのような役割を担うべきですか」という質問に対して、小学生の保護者は「心の安らぎを与える」が82.6%と最も高く、次いで「心身の成長を支える」、「子どもの夢や希望を応援する」の順となっています。

中学生の保護者も「心の安らぎを与える」が73.3%と最も高く、次いで「子どもの夢や希望を応援する」、「心身の成長を支える」の順となっています。

図3-11 子どもの育ちにおける保護者の役割

Q. お子さまがいきいきと育つために、あなたはどのような役割を担うべきだと思いますか。
(複数回答・いくつでも)

項目	保護者(小学5年生)		保護者(中学2年生)	
	27年度	23年度	27年度	23年度
心の安らぎを与える	①82.6	①79.3	①73.3	①75.6
心身の成長を支える	②74.6	②68.6	③69.8	③65.7
しつけをおこなう	45.6	46.9	41.4	40.9
社会規範を教える	42.2	39.5	41.1	41.3
気軽に相談にのる	55.6	50.9	56.3	51.3
積極的に声をかける	29.2	30.4	27.5	31.2
事故や犯罪から守る	56.2	50.2	48.7	43.6
有害な情報から守る	29.7	29.3	25.7	25.8
勉強を教える	23.5	21.3	10.4	9.0
スポーツや遊びの指導や相手をする	26.2	25.2	14.5	14.9
様々な体験の機会を設ける	59.9	56.9	45.2	44.5
伝統や文化、風習を伝える	21.9	22.2	17.2	18.8
家庭における役割を与える	36.8	39.1	33.1	34.8
自主的な活動をうながす	45.4	45.9	42.4	42.6
子どもの夢や希望を応援する	③72.5	③67.8	②72.7	②66.1
その他	1.5	0.8	1.2	1.0
わからない	0.4	0.0	0.5	0.7

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

注:①.②.③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

(1) 大人からの愛情

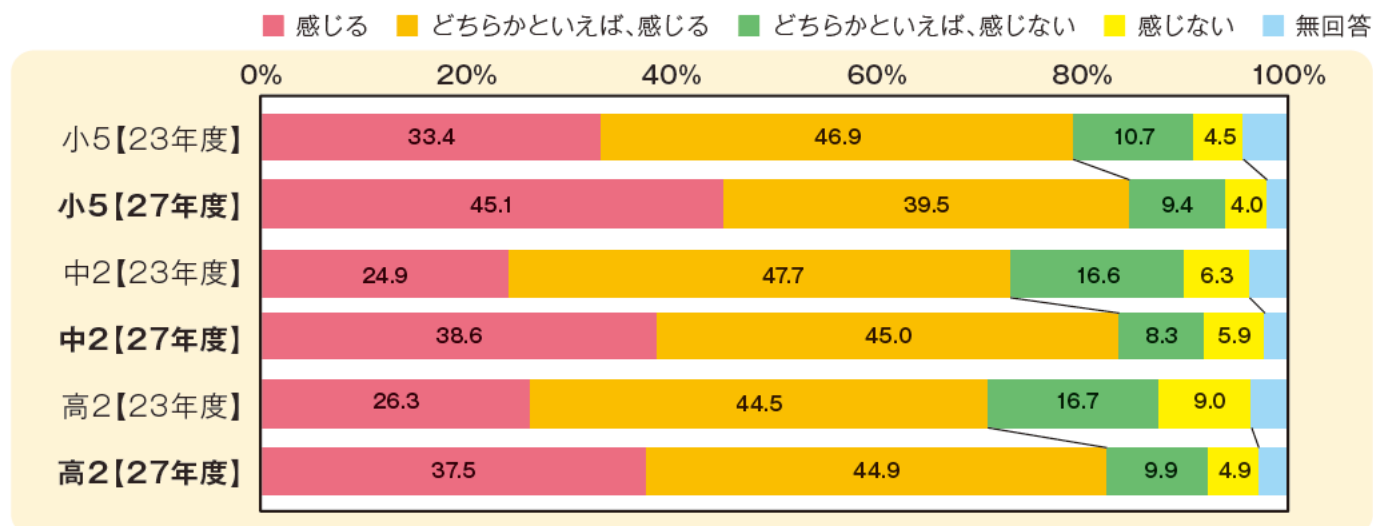
●「大切にされている」と感じる子どもの割合は、「子どもは大切にされている」と感じる保護者よりも低い。

「家庭や地域、学校などふだん生活しているなかで、大切にされていると感じますか」という質問に対して、「感じる」「どちらかといえば、感じる」と答えた小学生は84.6%、中学生は83.6%、高校生は82.4%となっており、前回の調査より、小学生は4.3ポイント、中学生は11.0ポイント、高校生は11.6ポイント、それぞれ高くなっています。

一方、「あなたの子どもが、家庭や地域、学校などふだん生活しているなかで、大切にされていると感じますか」という質問に対して、「感じる」「どちらかといえば、感じる」と答えた小学生の保護者は95.7%、中学生の保護者は94.1%で、子どもと保護者の間には意識の差がみられます。

図3-12 「大切にされている」と感じるか

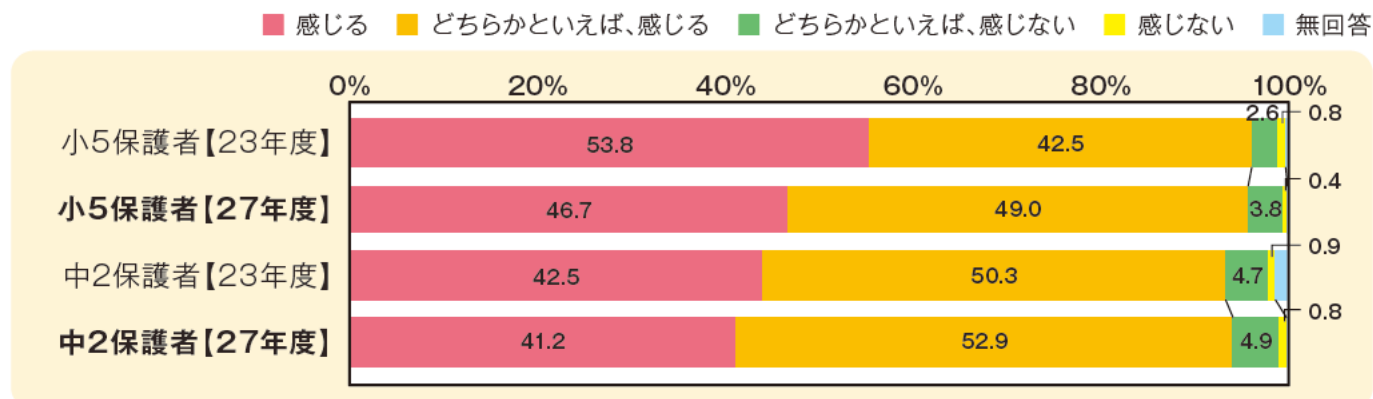
Q. あなたは、家庭や地域、学校などふだん生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか。



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図3-13 「子どもは大切にされている」と感じるか(保護者)

Q. あなたは、あなたのお子さまが、家庭や地域、学校などふだん生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか。



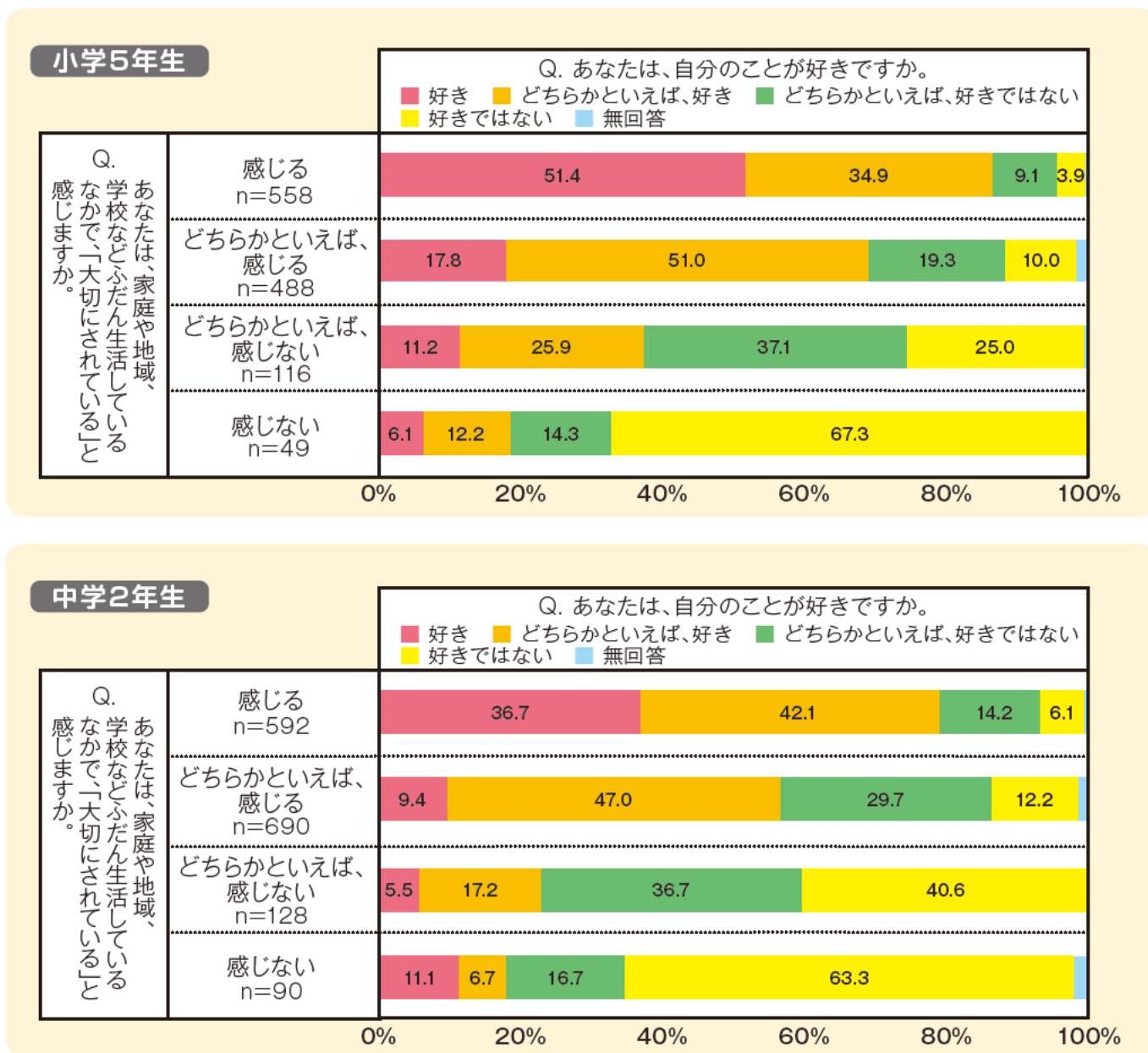
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●大切にされていると「感じる」子どもは「感じない」子どもより「自分のことが好き」と答える割合が高い。

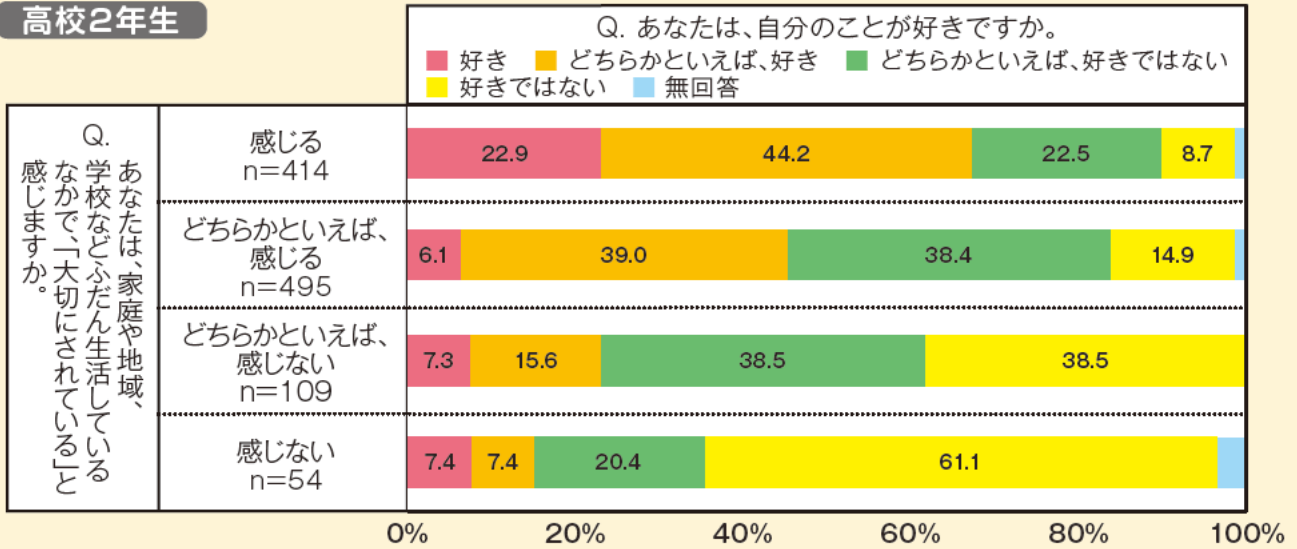
「大切にされている」と「自分のことが好き」の関係を見ると、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた小学生の割合は、大切にされていると「感じる」子どもでは86.3%であるのに対し、「感じない」子どもでは18.3%と低くなっています。

同様に、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた中学生の割合は、大切にされていると「感じる」子どもでは78.8%、「感じない」子どもでは17.8%、高校生では、大切にされていると「感じる」子どもでは67.1%、「感じない」子どもでは14.8%となっており、ふだん生活している中で大切にされていると「感じる」子どもの方が「感じない」子どもより「自分のことが好き」と答える割合が高くなっています。

図3-14 「大切にされている」と「自分のことが好き」との関係



高校2年生



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

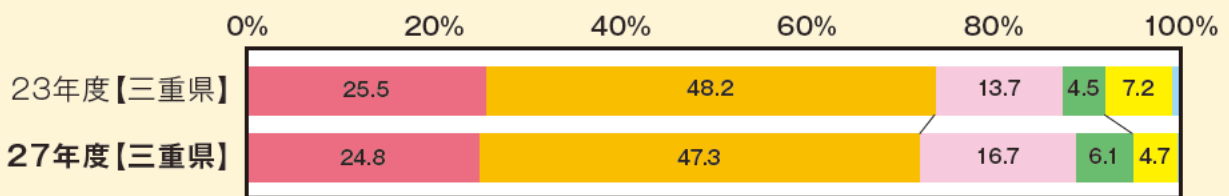
●今の社会の中で、子どもたちが「大切にされている」と感じる県民は減っている。

「今の社会のなかで、子どもたちが大切にされていると思いますか」という質問に対して、「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた県民の割合は72.1%で、前回の調査より低くなっています。

図3-15 「大切にされている」と感じるか(県民)

Q. あなたは、今の社会のなかで、子どもたちが大切にされていると思いますか。

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、思わない
■ 思わない ■ わからない ■ 無回答



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

(2) 大人の理解

●「自分のことをわかっている」と思う子どもの割合は、子どものことを「理解している」と思う保護者よりも低い。

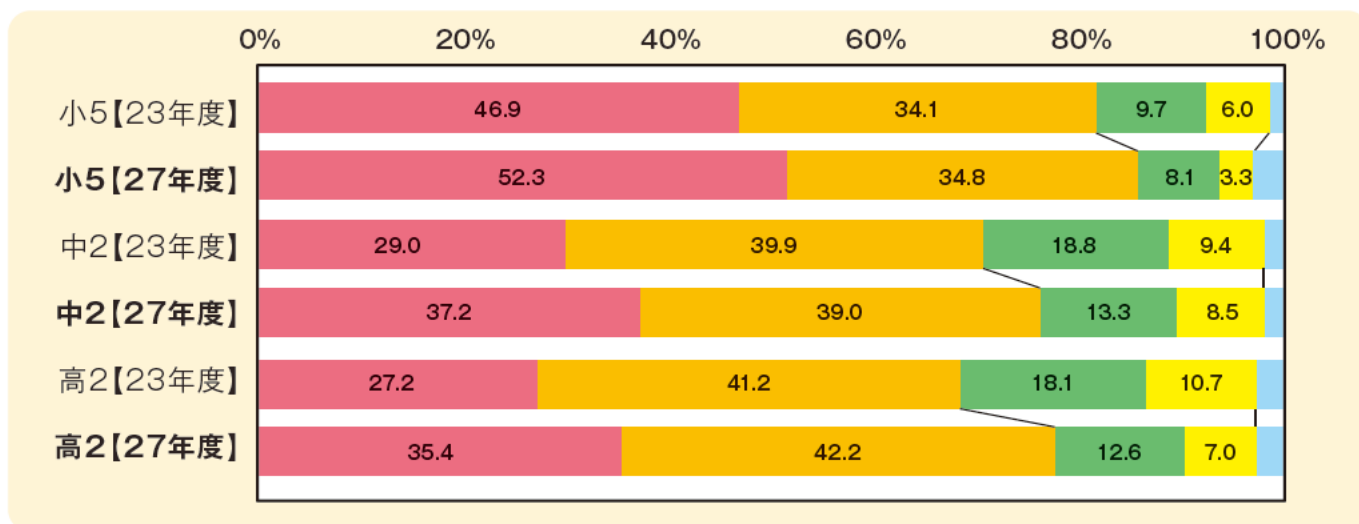
親(保護者)などの大人は自分のことをわかっていると思う「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた小学生は87.1%、中学生は76.2%、高校生は77.6%となっており、前回の調査より小学生で6.1ポイント、中学生で7.3ポイント、高校生で9.2ポイント、それぞれ高くなっています。

一方、子どものことを理解していると「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた小学生の保護者は94.2%、中学生の保護者は90.9%となっており、子どもと保護者の間には意識の差がみられます。

図3-16 大人は「自分のことをわかっている」と思うか

Q. あなたは、親(保護者)などの大人は、「自分のことをわかっている」と思いますか。

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、思わない ■ 思わない ■ 無回答

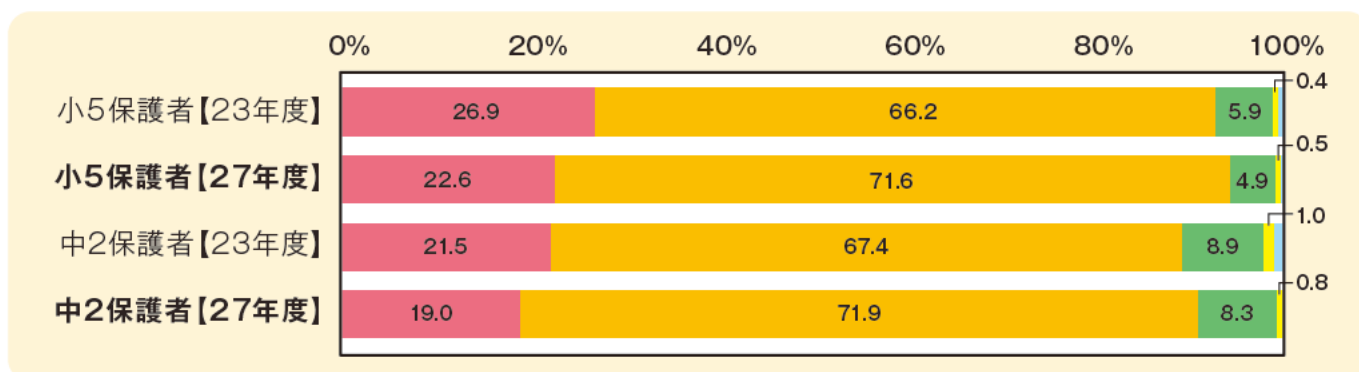


資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図3-17 「子どものことを理解している」と思うか(保護者)

Q. あなたは、お子さまのことを理解していると思いますか。

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、思わない ■ 思わない ■ 無回答



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●子どもが「決めた時間に自分で起きること」ができていると思う保護者は約40%、「近所の人へのあいさつ」は80%以上。

子どもが「家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること」が「できている」「どちらかといえば、できている」と答えた小学生の保護者は42.8%、中学生の保護者は39.8%となっています。

また、「休みの日に着る服を自分で選ぶこと」については、小学生の保護者は77.0%、中学生の保護者は86.8%となっています。

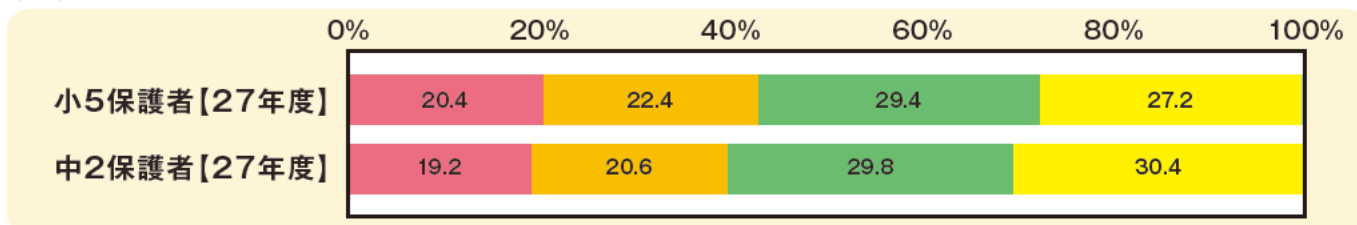
「近所の人にあいさつをすること」については、小学生の保護者は83.0%、中学生の保護者は86.8%、「初めて会った人に自分から話しかけること」については小学生の保護者は45.4%、中学生の保護者は43.2%となっています。

図3-18 大人からみた子どもが自分でできること

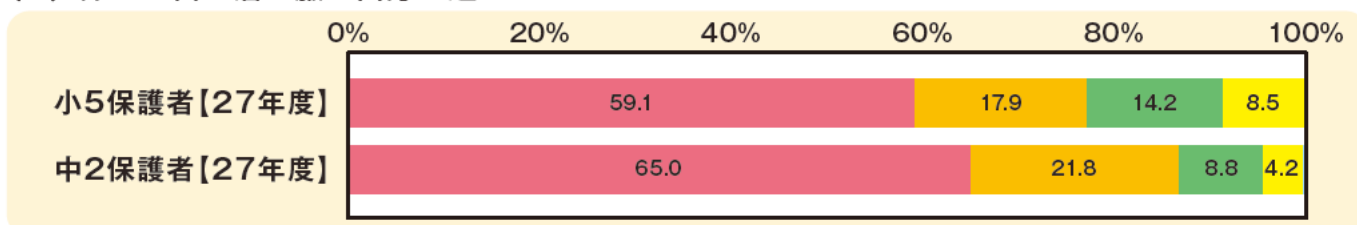
Q. あなたのお子さまは次のことができていると思いますか。

■ できている ■ どちらかといえば、できている ■ どちらかといえば、できていない ■ できていない ■ 無回答

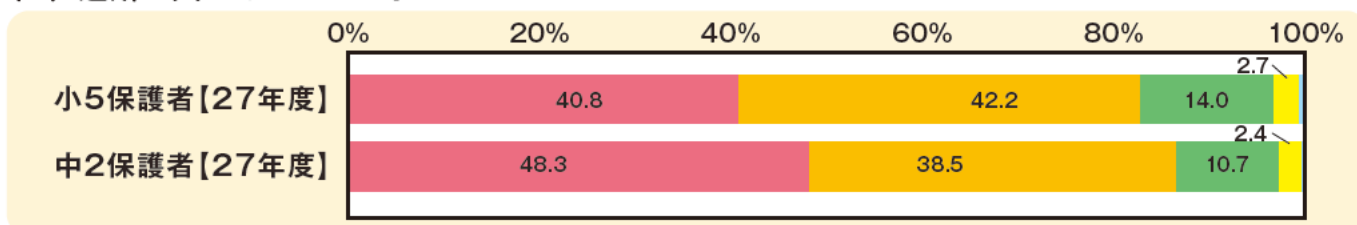
(1) 家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること



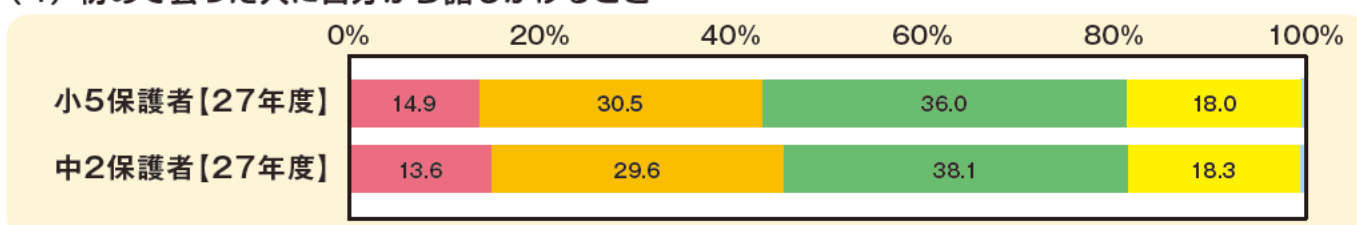
(2) 休みの日に着る服を自分で選ぶこと



(3) 近所の人にあいさつをすること



(4) 初めて会った人に自分から話しかけること



(1) 大人の傾聴姿勢

●大人は意見を「聞いてくれる」と感じる子どもの割合は増えているが、子どもの意見を「聞いている」と答える保護者の割合よりも低い。

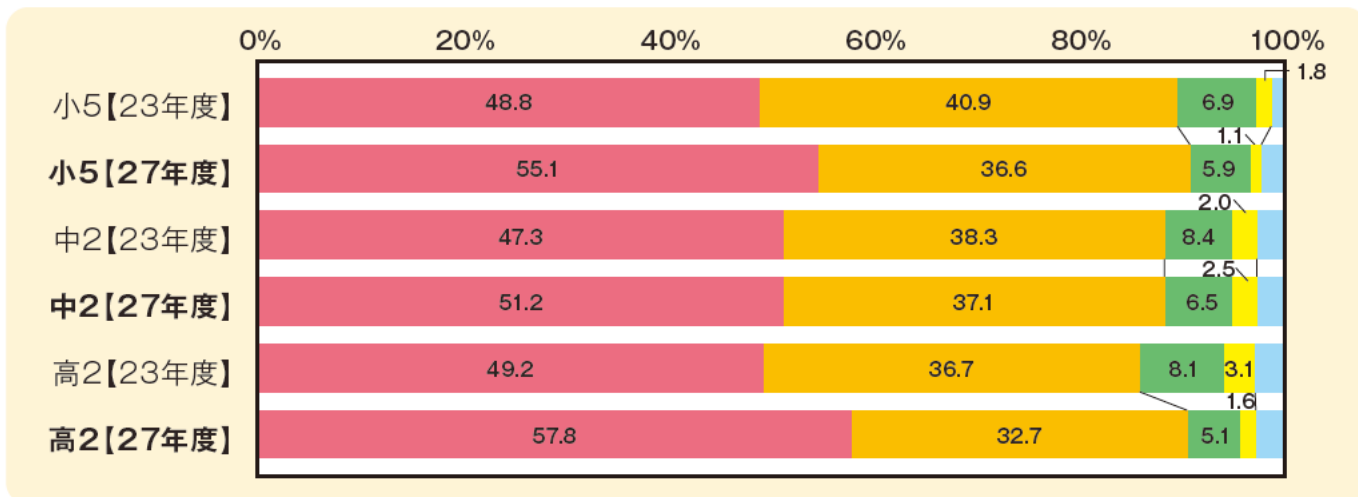
大人は意見を「いつも聞いてくれる」「ときどき聞いてくれる」と答えた小学生は91.7%、中学生は88.3%、高校生は90.5%と、いずれも前回の調査よりも高くなっています。

一方、子どもの意見を「いつも聞いている」「ときどき聞いている」と答えた小学生の保護者は98.0%、中学生の保護者は98.1%となっており、子どもと保護者の間には意識の差がみられます。

図3-19 子どもから見た大人の傾聴姿勢

Q. あなたは自分のことを決めるとき、親(保護者)などの大人は、あなたの意見を聞いてくれますか。

■ いつも聞いてくれる ■ ときどき聞いてくれる ■ あまり聞いてくれない ■ まったく聞いてくれない ■ 無回答

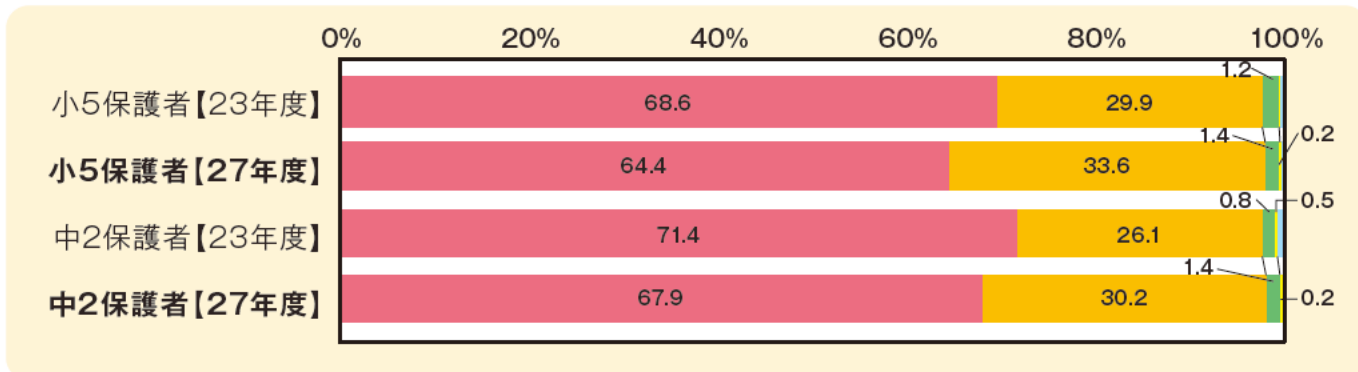


資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図3-20 大人の傾聴姿勢

Q. あなたは、お子さまのことを決めるとき、お子さまの意見を聞いていますか。

■ いつも聞いている ■ ときどき聞いている ■ あまり聞いていない ■ まったく聞いていない ■ 無回答



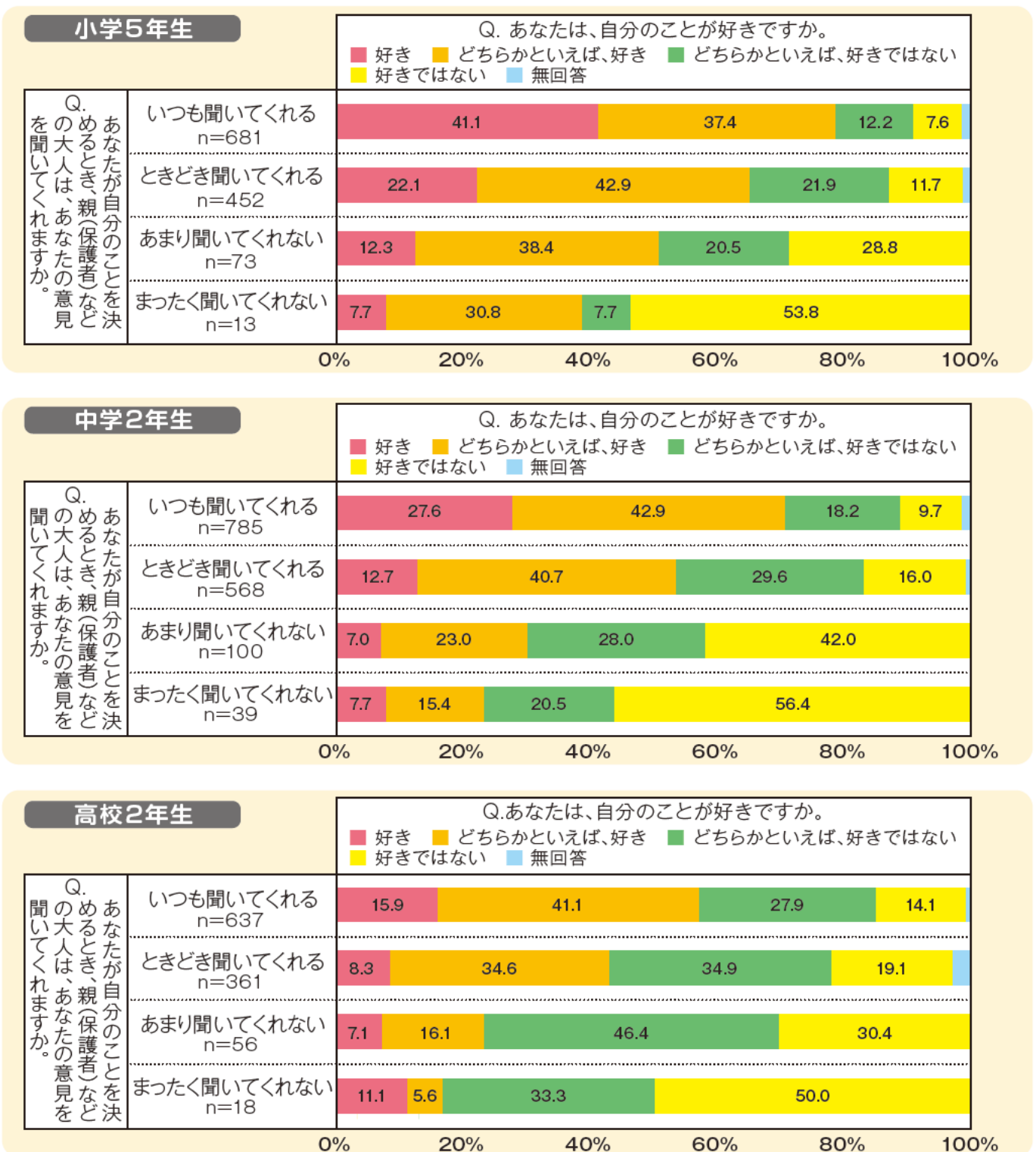
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●大人は自分の意見を「聞いてくれる」と答える子どもの方が「自分のことが好き」と答える割合が高い。

「大人は自分の意見を聞いてくれる」と「自分のことが好き」の関係をみると、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた小学生の割合は、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもでは78.5%であるのに対し、「まったく聞いてくれない」と答えた子どもでは38.5%と低くなっています。

同様に、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた中学生の割合は、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもでは70.5%、「まったく聞いてくれない」と答えた子どもでは23.1%、高校生では、「いつも聞いてくれる」と答えた子どもでは57.0%、「まったく聞いてくれない」と答えた子どもでは16.7%となっており、大人は自分の意見を「聞いてくれる」と答える子どもの方が「自分のことが好き」と答える割合が高くなっています。

図3-21 「意見を聞いてくれる」と「自分のことが好き」との関係



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●自分の意見を聞き入れてほしいと思うことは、小学生は「習いごと」や「服そう」、中高校生は「服そう」「部活動」「進学したい学校」などが上位。

「どのようなことについて自分で決めたり、自分の意見を聞き入れてほしいと思いますか」という質問に対して、小学生は「習いごと」が42.6%と最も高く、次いで「服そう」、「テレビ、ゲーム」の順となっています。

中学生・高校生は「服そう」がともに47.6%と最も高く、次いで中学生は「部活動」、「つきあう友だち」、高校生は「進学したい学校」、「つきあう友だち」の順となっています。

一方、「どのようなことについて、子どもに決めさせたり、子どもの意見を尊重したりしたいと思うか」という質問に対して、小学生の保護者は「服装」、「付き合う友だち」、「習い事」、中学生の保護者は「進学したい学校」、「クラブ活動」、「服装」の順に高くなっています。

図3-22 自分で決めたり意見を聞き入れてほしいこと

Q. あなたは、どのようなことについて自分で決めたり、自分の意見を聞き入れてほしいと思いますか。
(複数回答・いくつでも)

項目	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	27年度	23年度	27年度	23年度	27年度	23年度
服そう	②36.4	32.9	①47.6	①45.8	①47.6	②47.1
習いごと	①42.6	②37.3	31.3	18.8	14.2	11.3
塾	11.7	13.6	22.3	16.5	9.9	8.8
家に帰る時間	21.0	18.8	30.2	25.4	32.3	33.2
テレビ、ゲーム	③35.4	①38.8	42.6	34.0	27.7	28.8
寝る時間	29.4	③35.6	40.7	38.2	35.6	38.8
進学したい学校	18.6	19.2	40.2	36.1	②43.7	36.1
部活動	15.7	20.4	②43.3	③37.2	35.4	26.9
アルバイト	7.8	11.8	16.2	16.7	20.5	26.4
就職先	12.4	19.6	23.4	22.6	30.3	28.1
つきあう友だち	21.0	30.7	③43.1	②42.0	③40.5	①50.2
携帯電話・スマートフォンを持つこと	31.4	27.7	39.2	30.7	27.4	25.6
趣味の活動	21.8	22.5	38.8	30.7	38.8	③40.3
学校のきまり	8.4	10.6	10.0	10.5	7.1	12.8
祭りなどの地域の行事	20.1	11.9	23.2	8.7	14.5	7.7
地域の児童館や公園などの施設の使い方	4.0	2.8	2.8	2.0	3.2	2.4
子どもにかかわる社会の決まりなどの重要なこと	5.7	3.7	5.2	2.7	3.4	3.8
その他	1.8	3.2	2.0	1.3	1.6	2.8
自分で決めたいと思わない	5.4	5.0	4.0	4.3	3.9	2.7

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

注:①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

図3-23 保護者が子どもに決めさせたり意見を尊重したいこと

Q. あなたは、どのようなことについてお子さまに決めさせたり、お子さまの意見を尊重したりしたいと思いますか。(複数回答・いくつでも)

(%)

項目	保護者(小学5年生)		保護者(中学2年生)	
	27年度	23年度	27年度	23年度
服装	①64.4	③54.8	③63.0	59.4
習い事	③61.9	②56.3	38.5	39.0
塾	20.6	23.6	28.1	29.9
家に帰る時間	8.3	6.6	10.3	9.3
テレビ、ゲーム	16.3	11.8	18.4	13.5
寝る時間	8.8	8.9	20.5	17.6
進学したい学校	52.0	52.2	①65.1	①68.9
クラブ活動	49.9	52.7	②64.4	②66.9
アルバイト	12.8	15.3	9.7	12.5
就職先	31.4	29.5	29.2	28.2
付き合う友達	②62.1	①64.5	62.1	③60.8
携帯電話・スマートフォンを持つこと	3.4	4.1	11.3	8.6
趣味の活動	48.1	41.8	40.1	35.4
学校のきまり	9.5	8.6	9.9	10.6
祭りなどの地域の行事	25.5	20.2	26.1	16.5
地域の児童館や公園などの施設の使い方	6.5	5.8	5.3	4.1
子どもにかかわる社会の決まりなどの重要なこと	9.5	6.8	8.8	9.4
その他	0.7	0.8	0.9	1.4
自分で決めさせようとは思わない	0.1	0.0	0.6	0.3

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

注:①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

(2) 今の子どもの特徴

●今の子どもたちは「元気がある」と感じる県民は約70%、「忍耐力がない」は約80%。

「今の子どもたちの特徴」について、「元気がある」と答えた県民の割合は68.8%、「個性がある」は63.2%、「誠実である」は48.2%で、肯定的な回答が多くなっています。

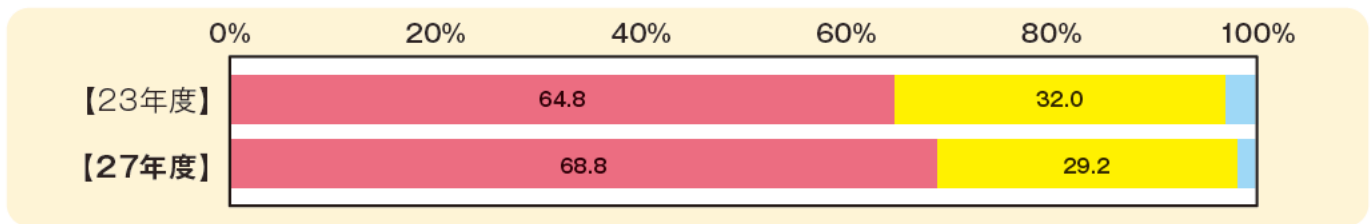
一方、「忍耐力がある」は12.6%、「社会に関心がある」は19.2%、「自立心がある」は23.3%で、否定的な回答が多くなっています。

図3-24 大人が感じる今の子どもの特徴

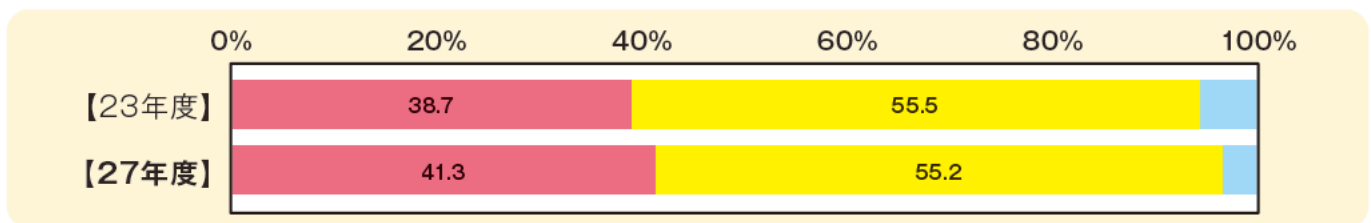
Q. あなたは、一般に、今の子どもたちの特徴をどのように感じますか。

■ はい ■ いいえ ■ 無回答

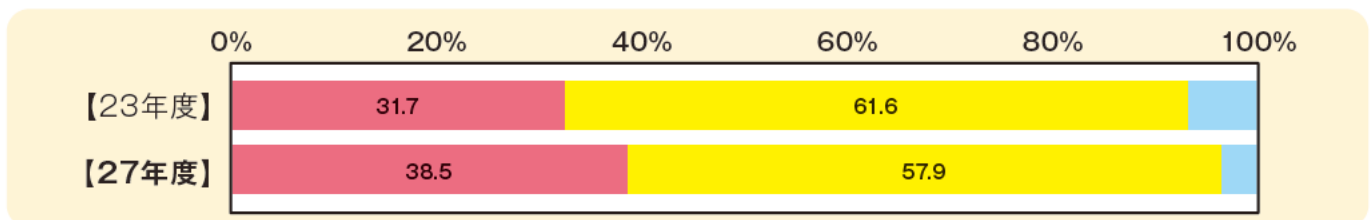
(1) 元気がある



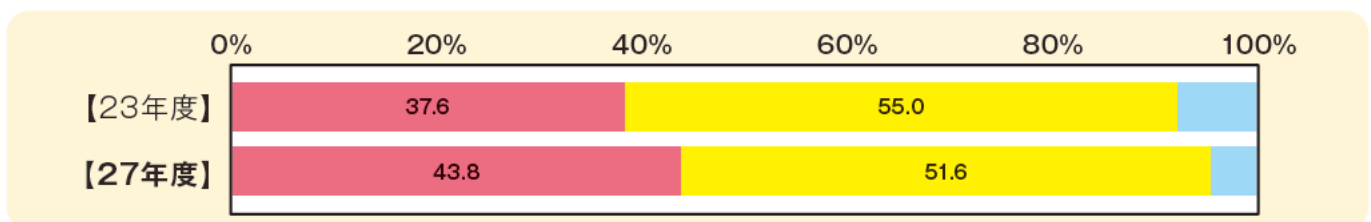
(2) 他人に対する思いやりがある



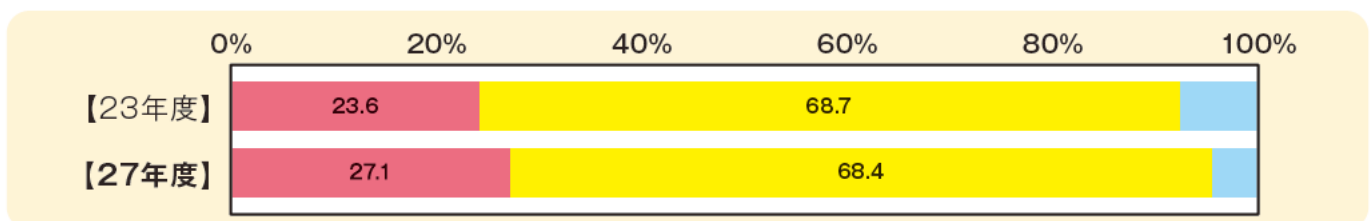
(3) 意欲的である



(4) 夢がある

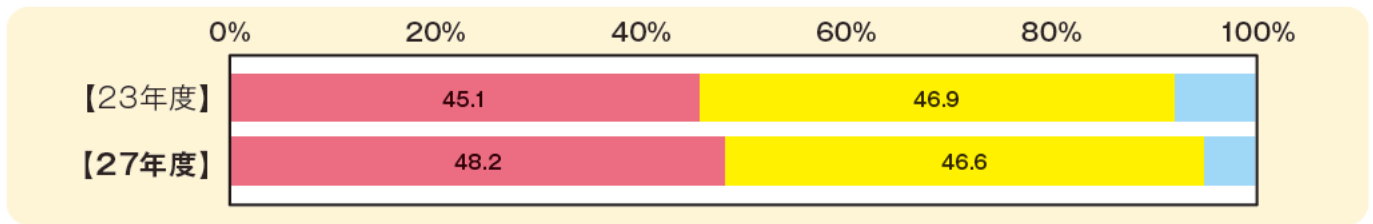


(5) 責任感がある

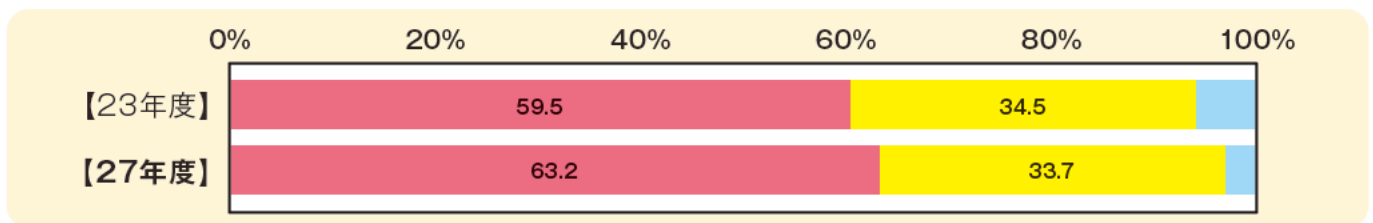


■ はい ■ いいえ ■ 無回答

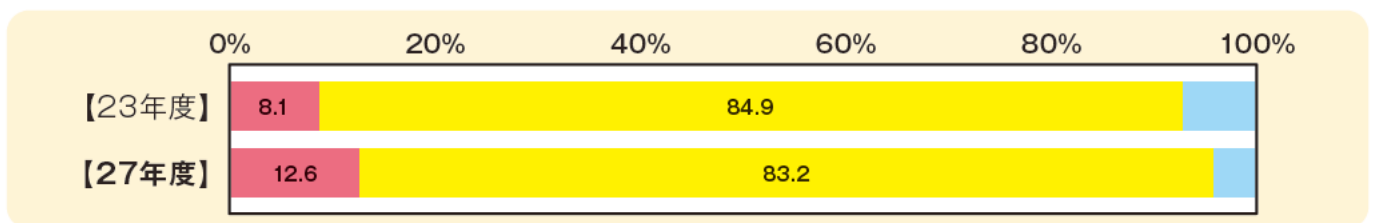
(6) 誠実である



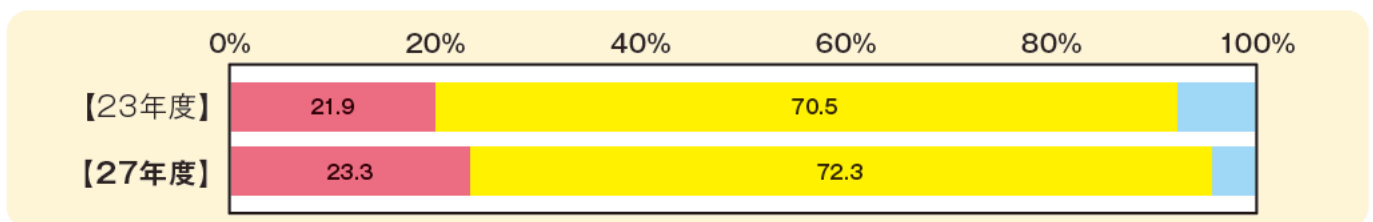
(7) 個性がある



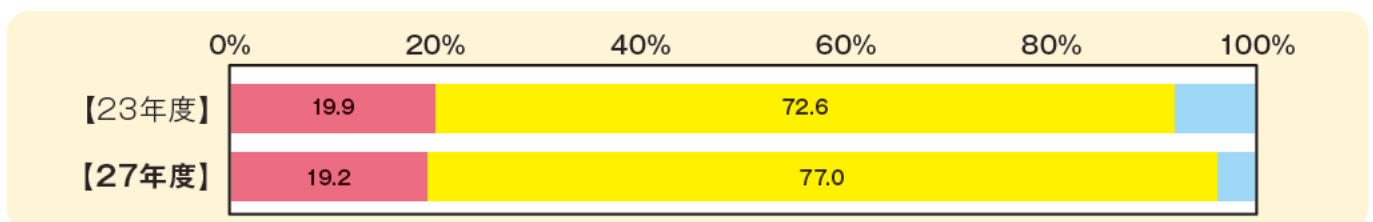
(8) 忍耐力がある



(9) 自立心がある



(10) 社会に関心がある



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

(1) 子どもの体験

●赤ちゃんとふれあいや、小さい子どもと遊んだ経験が「何でもある」または「少しある」子どもは60%以上、自然体験が「何でもある」子どもは約半数。

赤ちゃんとふれあったことが「何でもある」「少しある」と答えた小学生は74.3%、中学生は66.1%、高校生は60.1%、小さい子どもと遊んであげたことについては、小学生は74.0%、中学生は65.9%、高校生は70.3%となっています。

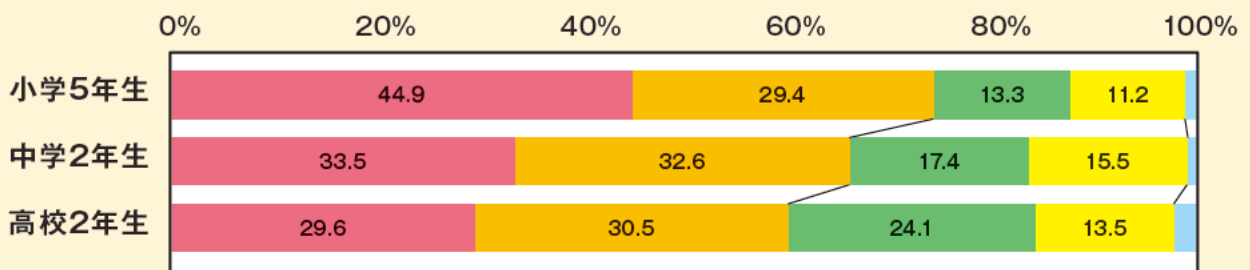
また、山や森、川や海など、自然の中で遊んだことが「何でもある」と答えた小学生は51.0%、中学生は48.7%、高校生は54.0%となっています。

図3-25 今までの体験

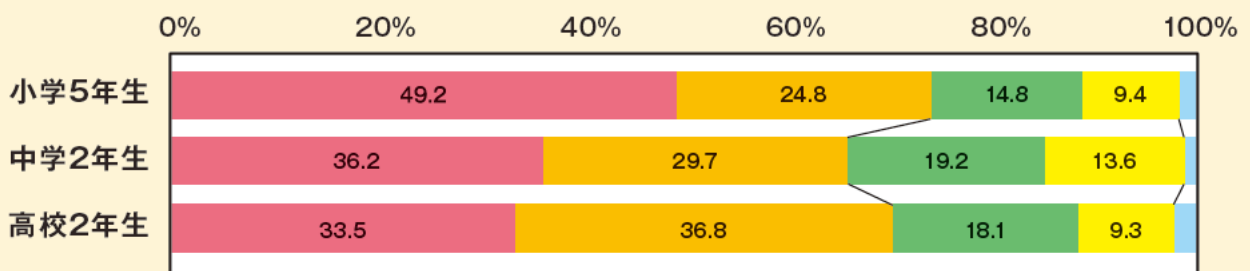
Q. あなたは、今までに、次のようなことをどのくらいしたことがありますか。

■ 何でもある ■ 少しある ■ あまりない ■ まったくない ■ 無回答

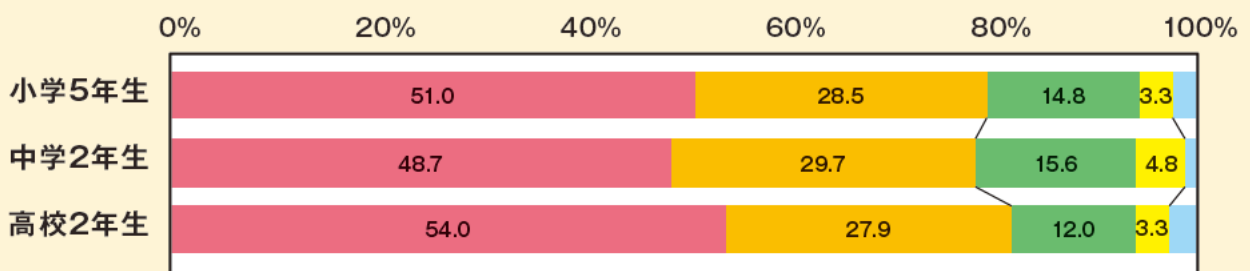
(1) 赤ちゃんとふれあったこと



(2) 小さい子ども(保育所や幼稚園などに通う)と遊んであげたこと

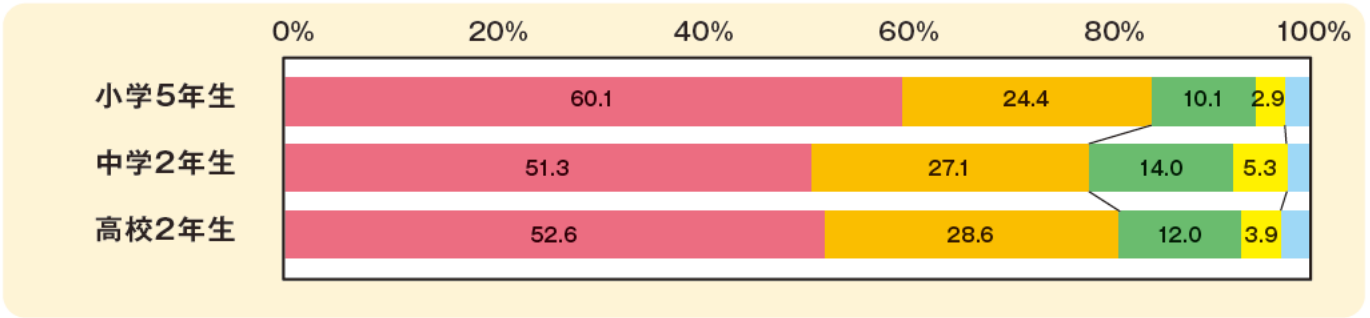


(3) 山や森、川や海など、自然の中で遊んだこと

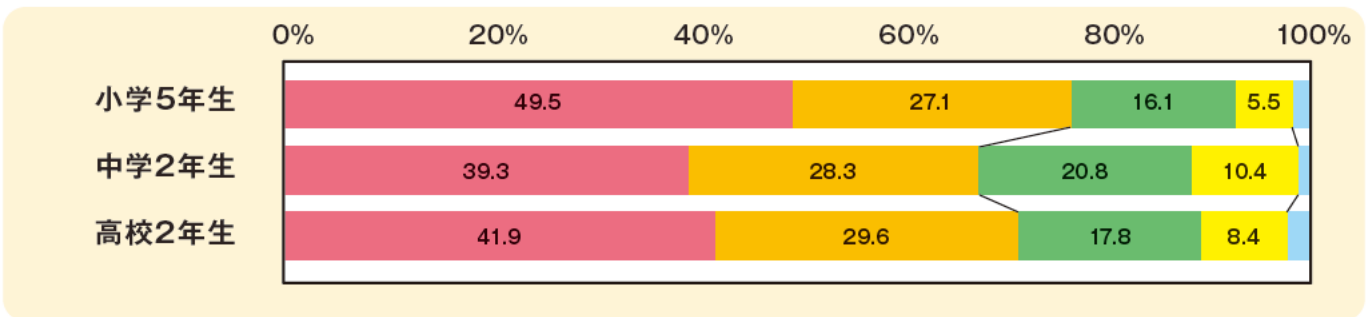


■ 何度もある ■ 少しある ■ あまりない ■ まったくない ■ 無回答

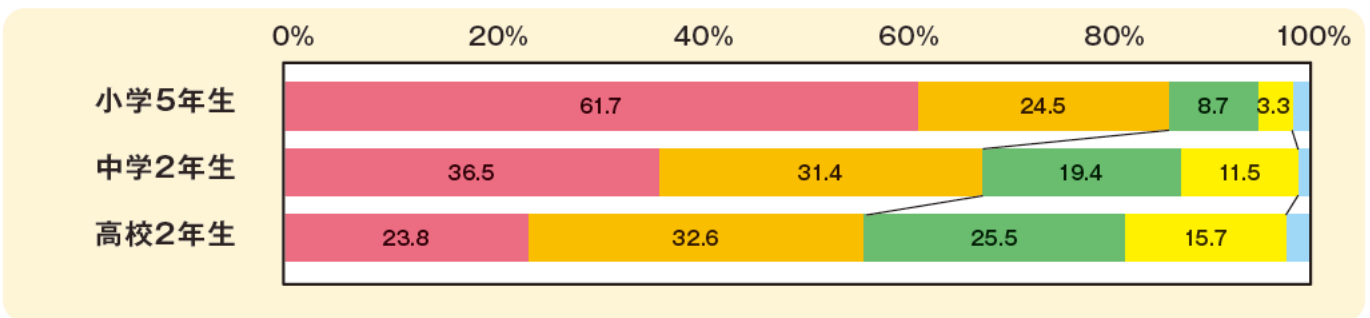
(4) 家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと



(5) 家の人と一緒にスポーツをしたこと



(6) 家の人に勉強を教えてもらったこと



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●「しっかり勉強するように言っている」保護者は70%以上、「スポーツと一緒に楽しんでいる」割合は30%以上。

子どもとの関わりについて、「しっかり勉強するように言っている」に「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と答えた小学生の保護者は79.9%、中学生の保護者は76.8%となっています。

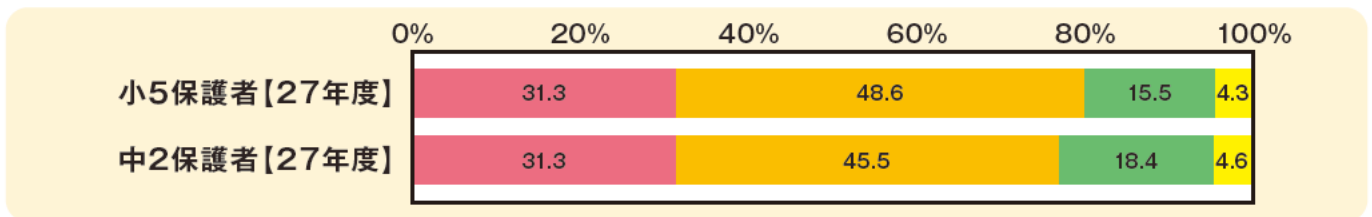
また、「子ども自身でできることは自分でさせている」小学生の保護者は89.8%、中学生の保護者は84.3%、「山や森、川や海など、自然の中で遊ばせている」小学生の保護者は51.8%、中学生の保護者は38.8%、「子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる」小学生の保護者は44.2%、中学生の保護者は31.2%、「子どもと一緒にスポーツ以外の趣味を楽しんでいる」小学生の保護者は54.7%、中学生の保護者は43.3%となっています

図3-26 子どもとの関わり

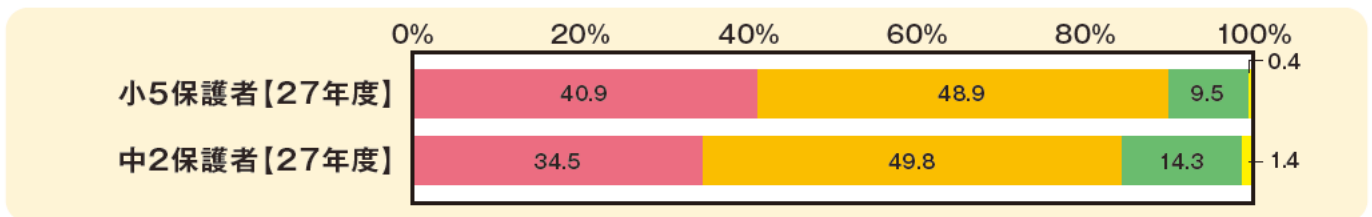
Q. 普段のあなたとお子さまとのかかわりについて、次のことがどのくらいあてはまりますか。

■ あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答

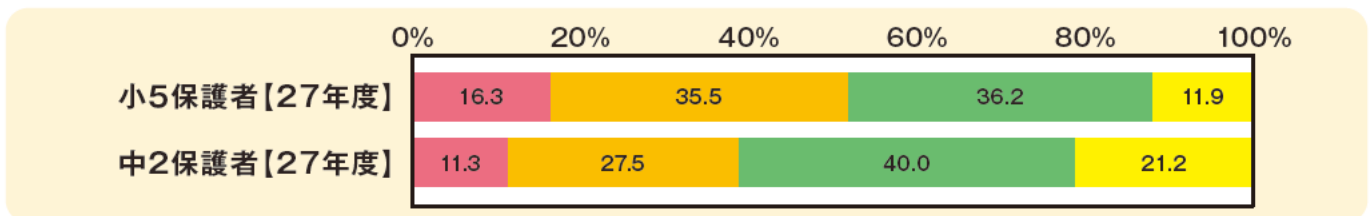
(1) しっかり勉強するように言っている



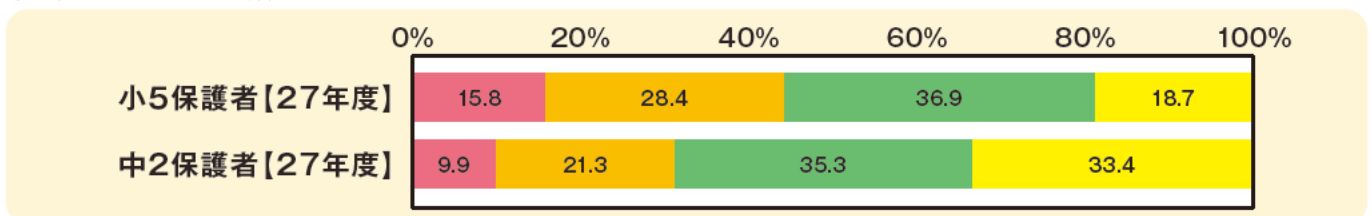
(2) 子ども自身でできることは自分でさせている



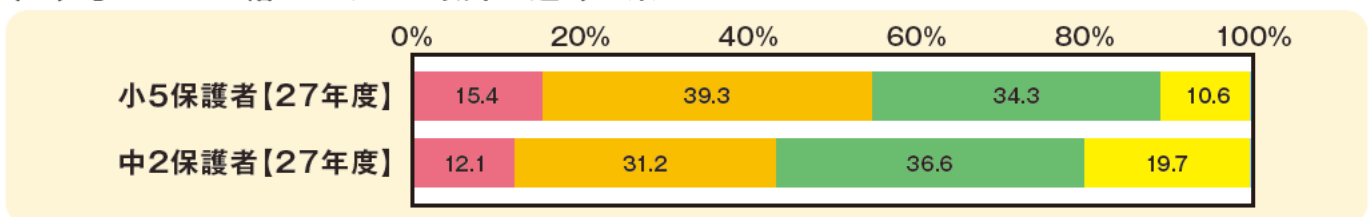
(3) 山や森、川や海など、自然の中で遊ばせている



(4) 子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる



(5) 子どもと一緒にスポーツ以外の趣味を楽しんでいる



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

第4章

－子どもと地域－

この章では、「三重県子ども条例に基づく調査」の結果をもとに、地域の大人との関わりやこれまでの体験や経験の有無などを通して、子どもを育む地域社会の状況をみます。

近所付き合いの程度が低下するほか、近所の子どもをほめたり、子どもたちの育ちを見守り、応援したいと「思う」大人は減っています。

その一方で、近所の大人からほめられたことのある子どもほど、「自分のことが好き」と答える割合が高いという結果が出ており、子どもの育ちや子育てで家庭を支える地域の力を高めていくことが重要と考えられます。

子どもを自然の中で遊ばせている保護者ほど自分の子どもが「初めて会った人に自分から話しかけることができる」と答えたり、一緒にスポーツを楽しんでいる保護者ほど自分の子どもが「近所の人にあいさつをすることができる」と答える割合が高いなど、子どもの体験や経験とコミュニケーション能力に関係がみられます。

また、多くの大人が、子どもがいきいきと育つためには、異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動することが重要と考えており、子どもが自然体験やスポーツなどに楽しむことができる環境づくりが重要と考えられます。

第4章 第1節 子どもと近所との関わり

(1) 子どもの育ちへの応援

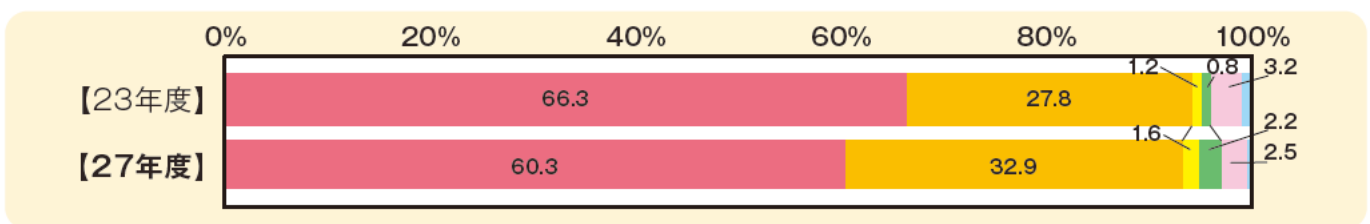
●90%以上の県民が子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思っているが、「思う」県民は減っている。

「子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思いますか」という質問に対して、「思う」「どちらかといえば、思う」と答えた県民の割合は93.2%となっており、前回の調査とほぼ同じですが、「思う」については6.0ポイント低くなっています。

図4-1 子どもたちの育ちへの応援

Q. あなたは、子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思いますか。

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、思わない ■ 思わない ■ わからない ■ 無回答



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

(2) 近所とのつきあい

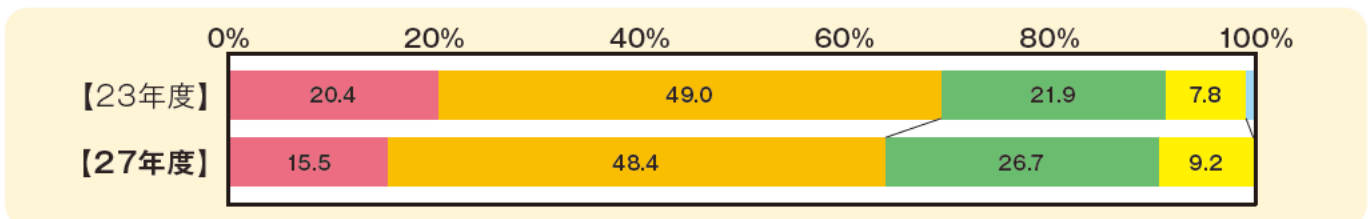
●近所づきあいをしていない県民が増えている。

「となり近所とのおつきあいを、どの程度されていますか」という質問に対して、「あまりつきあっていない」「つきあっていない」と答えた県民の割合は35.9%となっており、前回の調査よりも高くなっています。

図4-2 近所とのつきあいの程度

Q. あなたは、となり近所とのおつきあいを、どの程度されていますか。

■ よくつきあっている ■ ある程度つきあっている ■ あまりつきあっていない ■ つきあっていない ■ 無回答



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

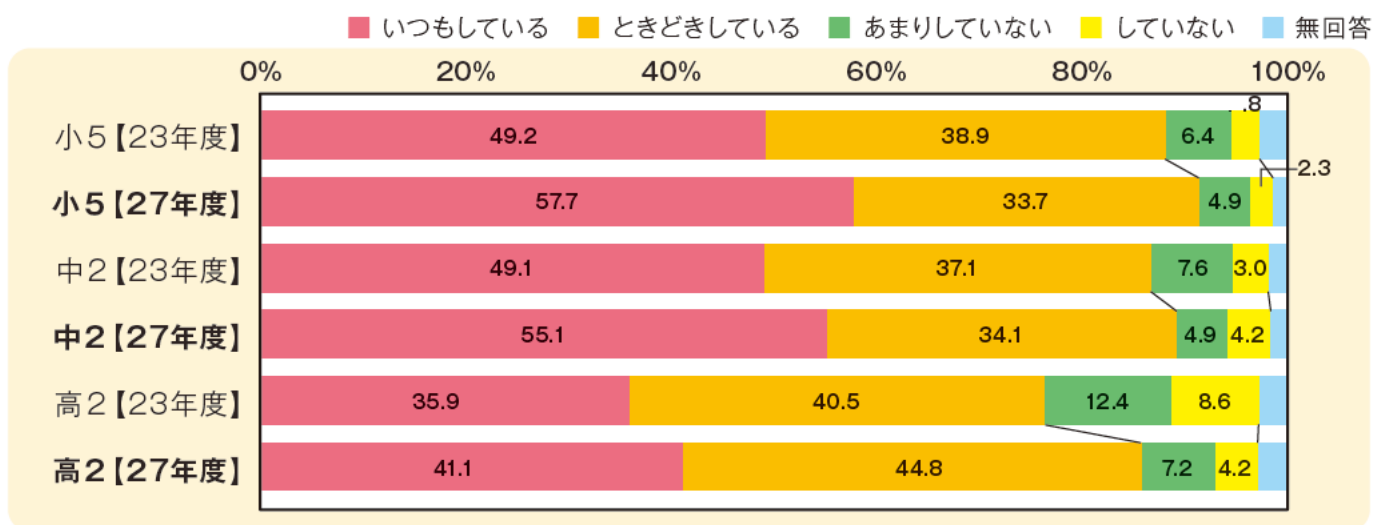
(3) 近所の人と子どもとの関係

●近所の人とあいさつをしている子どもは増えているが、近所の子どもとあいさつをしている県民は減っている。

「近所の人とあいさつをしていますか」という質問に対して、「いつもしている」「ときどきしている」と答えた割合は、小学生は91.4%、中学生は89.2%、高校生は85.9%となっており、いずれも前回の調査よりも高くなっています。一方、「近所の子どもとあいさつをしていますか」という質問に対して、「いつもしている」「ときどきしている」と答えた県民の割合は69.8%となっており、前回の調査よりも低くなっています。

図4-3 近所の人へのあいさつ

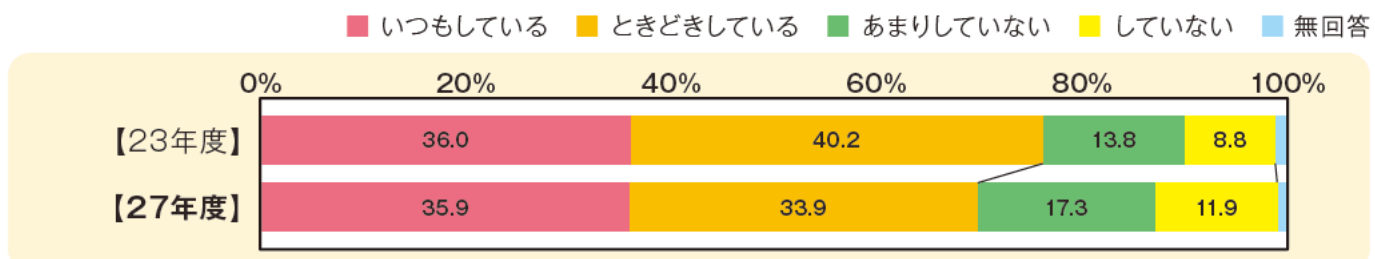
Q. あなたは、近所の人とあいさつをしていますか。



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図4-4 近所の子どもとのあいさつ

Q. あなたは、近所の子どもとあいさつをしていますか。



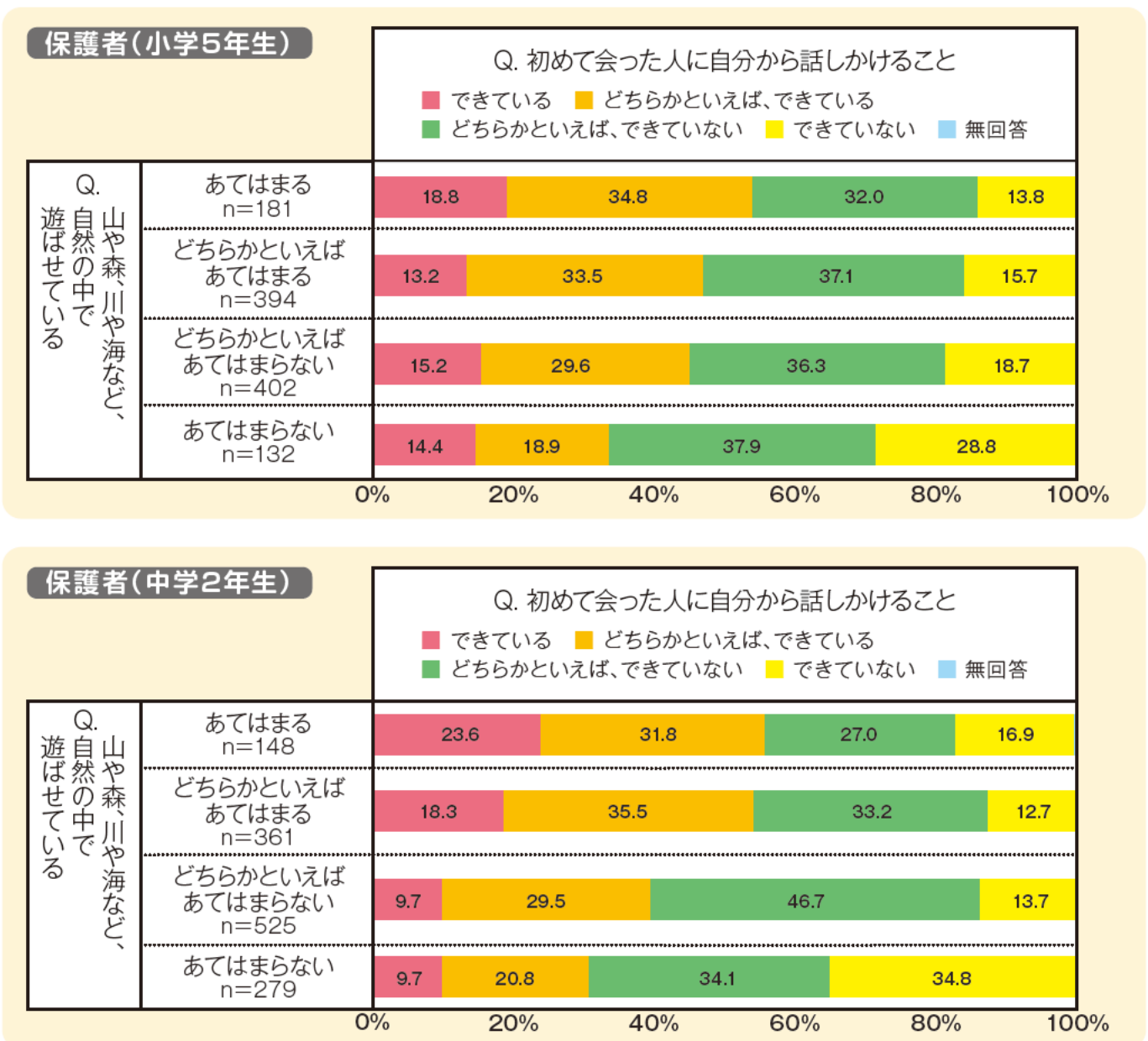
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

●子どもを自然の中で遊ばせている保護者ほど、自分の子どもが「初めて会った人に自分から話しかけることができる」と答える割合が高い。

「子どもを自然の中で遊ばせている」と「子どもが初めて会った人に自分から話しかけること」の関係を見ると、子どもが初めて会った人に自分から話しかけることが「できている」「どちらかといえば、できている」と答えた小学生の保護者の割合は、「遊ばせている」と答えた保護者では53.6%であるのに対し、「遊ばせていない」と答えた保護者では33.3%と低くなっています。

同様に、子どもが初めて会った人に自分から話しかけることが「できている」「どちらかといえば、できている」と答えた中学生の保護者の割合は、「遊ばせている」と答えた保護者では55.4%、「遊ばせていない」と答えた保護者では30.5%となっており、子どもを自然の中で遊ばせていると答える保護者の方が「子どもが初めて会った人に自分から話しかけることができる」と答える割合が高くなっています。

図4-5 自然体験と「子どもが自分から話しかけること」との関係



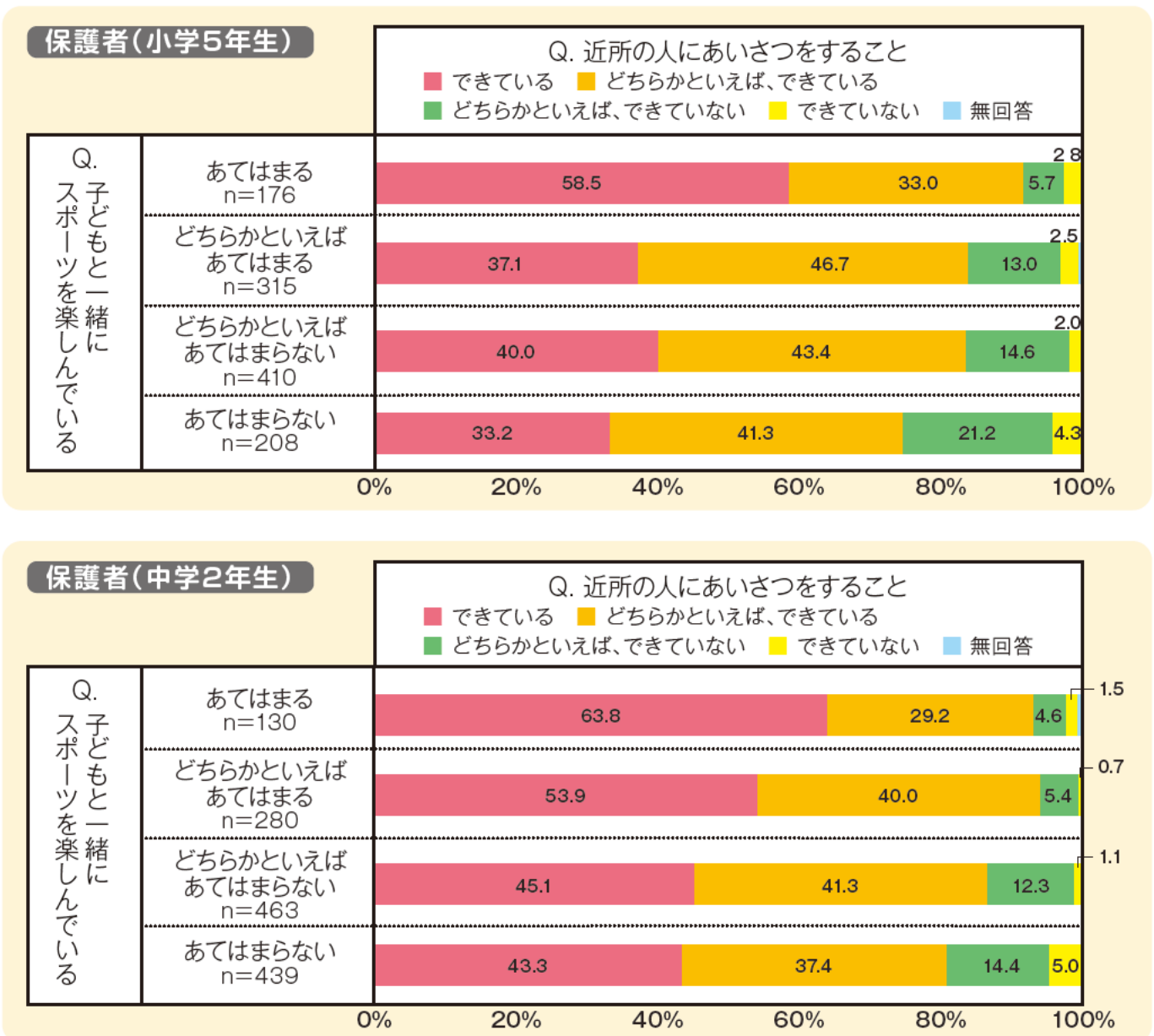
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる保護者ほど、自分の子どもが「近所の人にあいさつをすることができている」と答える割合が高い。

「子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる」と「近所の人にあいさつをすること」の関係をみると、近所の人にあいさつをすることが「できている」「どちらかといえば、できている」と答えた小学生の保護者の割合は、「一緒に楽しんでいる」と答えた保護者では91.5%であるのに対し、「一緒に楽しんでいない」と答えた保護者では74.5%と低くなっています。

同様に、近所の人にあいさつをすることが「できている」「どちらかといえば、できている」と答えた中学生の保護者の割合は、「一緒に楽しんでいる」と答えた保護者では93.0%、「一緒に楽しんでいない」と答えた保護者では80.7%となっており、子どもと一緒にスポーツを楽しんでいる保護者の方が、自分の子どもが「近所の人にあいさつをすることができている」と答える割合が高くなっています。

図4-6 「スポーツを一緒に楽しむこと」と「近所の人にあいさつすること」の関係



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

(4) 子どもが育つために取り組みたいこと

●多くの大人が、子どもがいきいきと育つためには、異なる年齢の子どもと一緒に活動したりすることが重要だと考えている。

「子どもが住んでいる地域でどんなことに取り組みるとよいか」という質問に対して、「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」と答えた割合が小学生の保護者で54.9%、中学生の保護者で34.5%と、それぞれ最も高くなっています。

また、「子どもがいきいきと育つために、地域の子どものと一緒に取り組みたいと思うことはどんなことか」という質問に対して、「地域のスポーツクラブやサークルで活動する」と答えた県民の割合が36.2%と最も高く、次いで「地域の行事を計画する」、「一緒になって遊ぶ」の順となっています。

図4-7 子どもが地域で取り組みるとよい事(保護者)

Q. あなたは、お子さまが、住んでいる地域でどんなことに取り組みるとよいと思いますか。(複数回答・いくつでも)

項目	保護者(小学生)		保護者(中学生)	
	27年度	23年度	27年度	23年度
地域の歴史や文化について勉強する	33.9	28.9	②30.7	27.4
農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する	②35.3	28.7	28.0	23.2
地域の大人と意見交換などをする	17.2	12.7	17.8	15.1
地域の行事を計画する	16.7	14.0	14.4	12.9
地域のスポーツクラブやサークルで活動する	33.2	②31.8	27.5	23.8
お年寄りや昔遊びなどで交流する	25.8	28.5	14.9	16.6
異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする	①54.9	①47.7	①34.5	①35.1
町の美化活動をする	28.4	③29.2	27.3	②30.1
防災活動など地域の安全を守るための活動をする	28.7	29.1	27.6	③29.0
いろいろな国の人と交流する	③34.7	23.5	③30.5	21.6
その他	1.8	0.5	1.4	2.3
特になし	5.5	10.2	9.5	12.1

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」注:①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

図4-8 子どもがいきいきと育つために取り組みたい事(県民)

Q. 子どもがいきいきと育つために、あなたが、地域の子どものと一緒に取り組みたいと思うことは、どんなことですか。(複数回答・いくつでも)

項目	27年度		23年度	
	27年度	23年度	27年度	23年度
地域の歴史や文化について勉強する	28.8	23.5		
農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する	30.5	24.1		
意見交換などをする	17.3	14.6		
地域の行事を計画する	②35.5	③30.6		
地域のスポーツクラブやサークルで活動する	①36.2	29.1		
昔遊びを伝える	17.3	19.8		
一緒になって遊ぶ	③33.9	①34.2		
町の美化活動をする	33.1	②31.5		
防災活動など地域の安全を守るための活動をする	29.5	25.0		
いろいろな国の人と交流する	19.7	11.3		
その他	4.1	2.2		
特になし	10.2	11.1		

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」注:①②③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

(1) 子どもへの大人の関わり

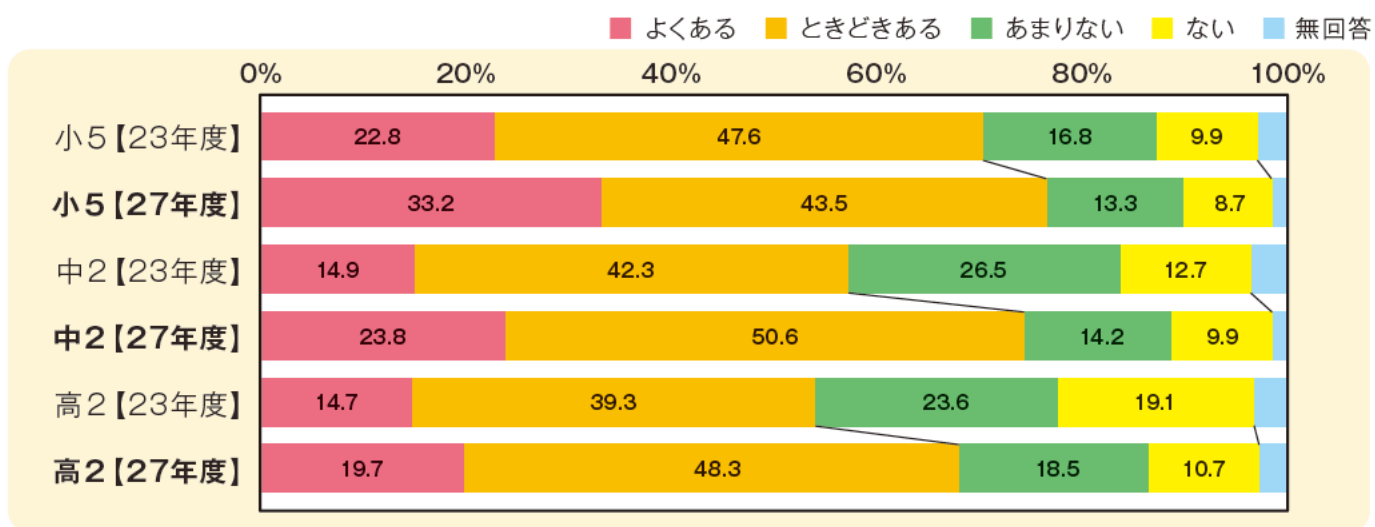
●近所の大人からほめられたことがある子どもの割合は前回よりも増えているが、近所の子どもをほめたことがある大人の割合は減っている。

「近所の大人からほめられたことはありますか」という質問に対して、「よくある」「ときどきある」と答えた小学生は76.7%、中学生は74.4%、高校生は68.0%となっており、前回の調査よりも小学生は6.3ポイント、中学生は17.2ポイント、高校生は14.0ポイント、それぞれ高くなっています。

一方で「近所の子どもをほめたことはありますか」という質問に対して、「よくある」「ときどきある」と答えた県民は45.3%となっており、前回の調査よりも低くなっています。

図4-9 近所の大人からほめられたこと

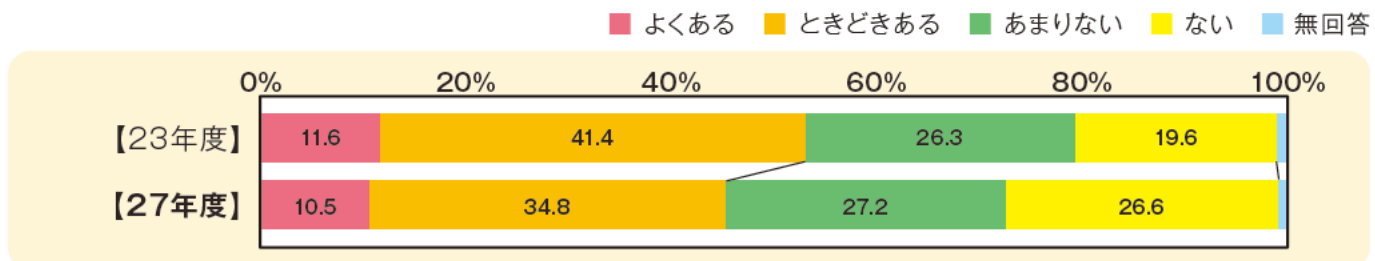
Q. あなたは、これまで近所の大人からほめられたことはありますか。



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図4-10 近所の子どもをほめたこと

Q. あなたは、近所の子どもをほめたことはありますか。



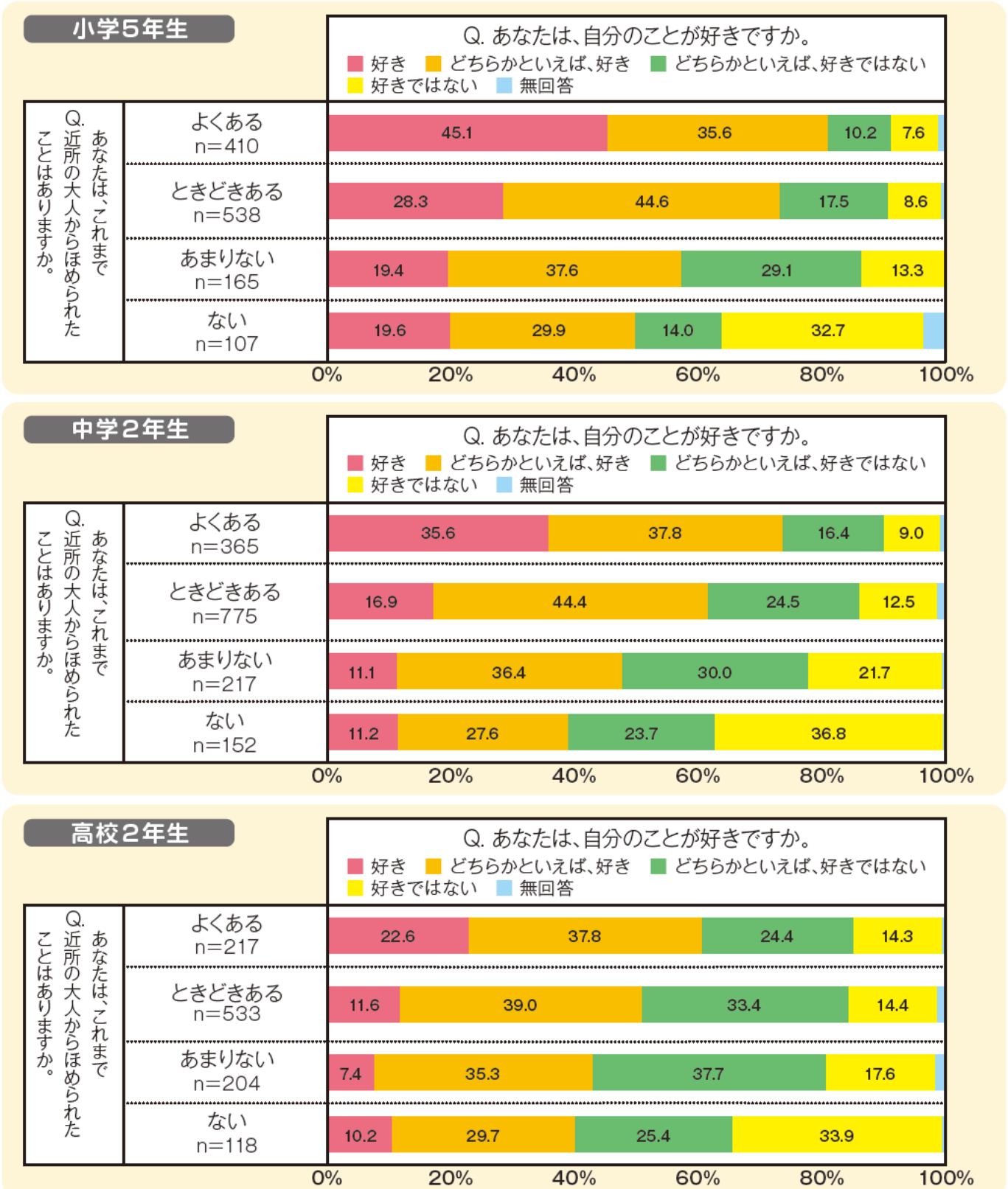
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

●近所の大人からほめられたことがある子どもほど、「自分のことが好き」と答える割合が高い。

「近所の大人からほめられた経験」と「自分のことが好き」の関係をみると、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた小学生の割合は、ほめられた経験が「よくある」子どもでは80.7%であるのに対し、「ない」子どもでは49.5%と低くなっています。

同様に、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた中学生の割合は、ほめられた経験が「よくある」子どもでは73.4%、「ない」子どもでは38.8%、高校生では、「よくある」子どもでは60.4%、「ない」子どもでは39.9%となっており、ほめられた経験の多い子どもの方が「自分のことが好き」と答える割合が高くなっています。

図4-11 「近所の大人からほめられたことがある」と「自分のことが好き」との関係



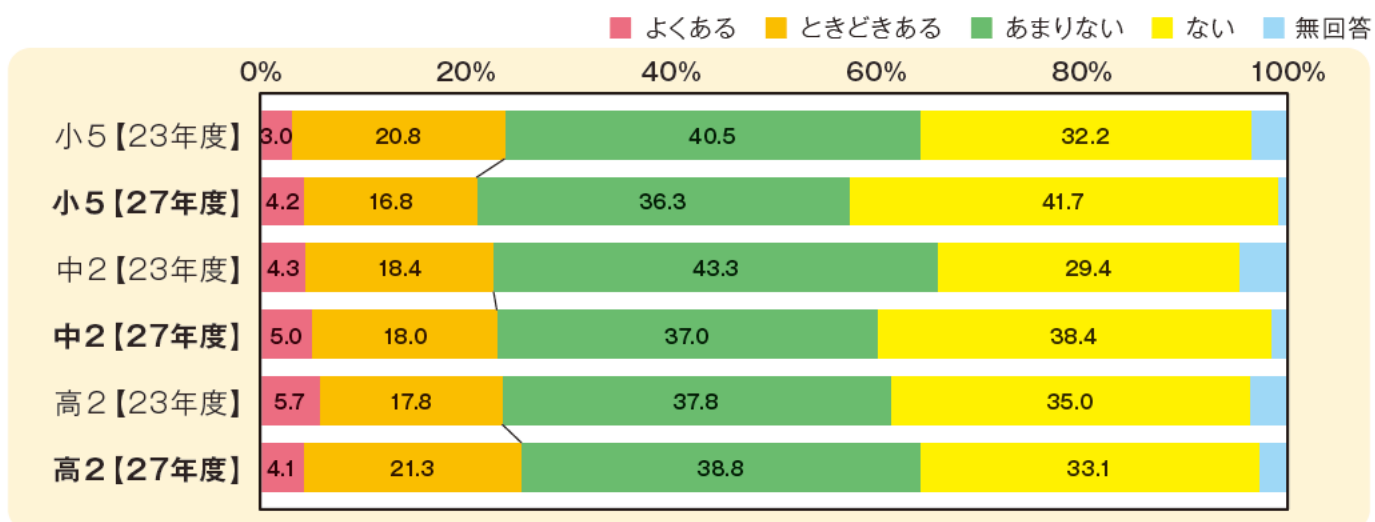
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●近所の大人から注意されたことが「よくある」または「ときどきある」子どもは約20%、注意したことが「よくある」または「ときどきある」県民は約30%。

「近所の大人から注意されたことはありますか」という質問に対して、「よくある」「ときどきある」と答えた小学生は21.0%、中学生は23.0%、高校生は25.4%となっています。また、「近所の子どもを注意したことはありますか」という質問に対して、「よくある」「ときどきある」と答えた県民の割合は28.7%となっており、前回の調査よりも低くなっています。

図4-12 近所の大人から注意されたこと

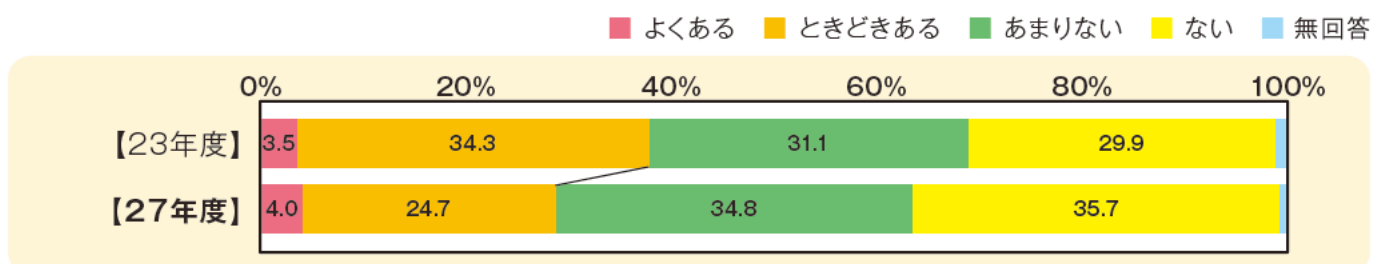
Q. あなたは、これまで近所の大人から注意されたことはありますか。



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図4-13 近所の子どもへ注意したこと

Q. あなたは、近所の子どもを注意したことはありますか。



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

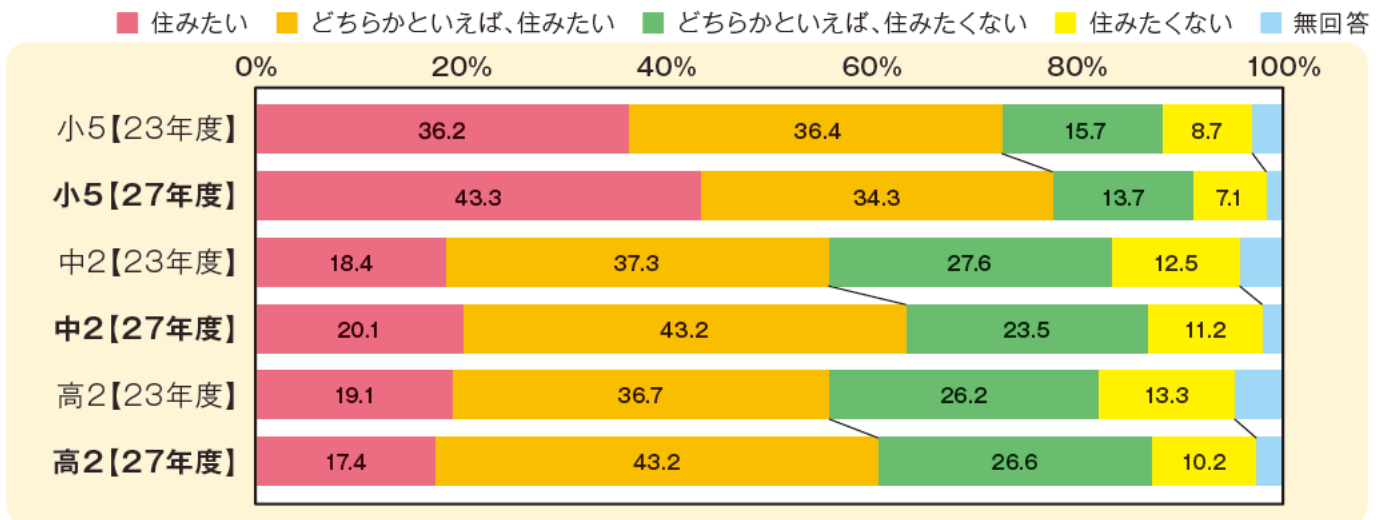
(1) 地域への愛着

●将来、自分が育った地域に住みたい子どもは増えている。

「将来自分が育った地域で住みたいと思いますか」という質問に対して、「住みたい」「どちらかといえば、住みたい」と答えた小学生は77.6%、中学生は63.3%、高校生は60.6%となっており、前回の調査よりも小学生で5.0ポイント、中学生で7.6ポイント、高校生で4.8ポイント高くなっています。

図4-14 将来、育った地域で住みたいか

Q. あなたは、将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか。



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●自分が住んでいる地域で特にしたいことはない高校生が40%。

「住んでいる地域で、どんなことに取り組んでみたいと思いますか」という質問に対して、「異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする」と答えた小学生は32.2%となっており、最も高くなっています。一方、「特にしたいことはない」と答えた中学生は32.1%、高校生は40.0%となっており、最も高くなっています。

図4-15 地域での取り組み

Q. あなたは、住んでいる地域で、どんなことに取り組んでみたいと思いますか。(複数回答・いくつでも)

項目	小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	27年度	23年度	27年度	23年度	27年度	23年度
地域の歴史や文化について勉強する	③25.2	16.0	16.1	12.3	6.3	8.2
農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する	②28.6	②24.0	18.5	11.6	8.2	7.1
地域の大人と意見交換などをする	5.6	4.9	6.3	3.1	4.1	4.8
地域の行事を計画する	17.6	14.1	16.5	7.6	10.4	7.3
地域のスポーツクラブやサークルで活動する	22.2	21.3	③24.0	②16.5	②22.7	②19.1
お年寄りや昔遊びなどで交流する	20.5	22.4	10.3	6.0	4.4	7.5
異なる年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする	①32.2	①30.3	②25.9	③15.3	17.3	③15.0
町の美化活動をする	17.4	9.4	16.8	9.2	③10.7	10.4
防災活動など地域の安全を守るための活動をする	17.2	14.4	12.4	6.3	6.3	4.7
いろいろな国の人と交流する	20.6	18.2	14.2	8.8	7.2	9.4
その他	2.9	1.3	2.2	1.2	1.2	1.1
特にしたいことはない	③25.2	③23.2	①32.1	①43.0	①40.0	①41.7

資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

注:①.②.③の項目は今回・前回それぞれの上位3位を表す。

第5章

－家族を持つこと－

この章では、「三重県子ども条例に基づく調査」の結果をもとに、高校生の結婚観や子どもを持つことの意識、県民の子育てに関する意識などをみます。

高校生の約13%が結婚したいと考えておらず、約16%が子どもをほしいと考えていません。

一方で、赤ちゃんふれあった経験や小さい子どもと遊んであげた経験が多い高校生ほど、いつかは「結婚したい」、「子どもがほしい」と答える割合が高いという結果が出ています。

結婚や子どもを持つことは個人の考え方や価値観を尊重することが大前提ですが、若者が結婚や子どもを持つことに関心を持てるようにするためには、赤ちゃんや小さい子どもとのふれあい体験を含めたライフプラン教育が重要と考えられます。

少子化の状況については多くの県民が危機感を感じています。

夫婦共働き世帯が増加する中で、若い世代ほど「父親も育児に積極的に参加すべき」と考える割合が高くなっていることから、仕事と子育て等の両立を希望する男女ともに働き続けることができる職場環境づくりが求められています。

また、多くの県民が祖父母による育児や家事の手助けが望ましいと考えており、親や配偶者の親との近居を理想の住まい方と考える県民も多いことから、祖父母世代の子育て支援が進むような環境づくりが重要と考えられます。

第5章 第1節 高校生の結婚観や子どもを持つことの意識

(1) 高校生の結婚観

●結婚したいと「思わない」または「あまり思わない」高校生が約13%。

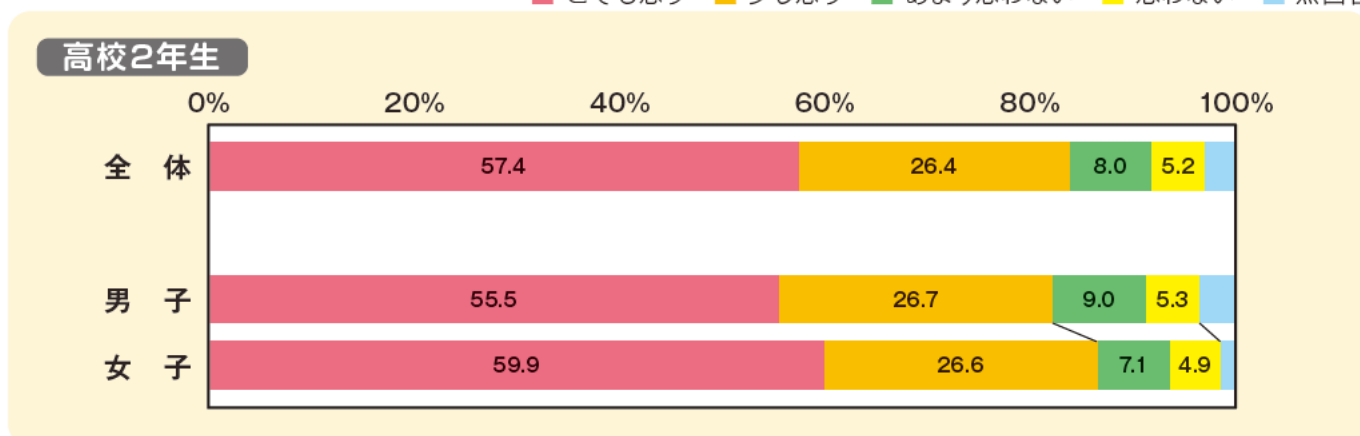
「いつかは結婚がしたいと思いますか」という質問に対して、「とても思う」「少し思う」と答えた高校生は83.8%で、「あまり思わない」「思わない」は13.2%となっています。また、男女別にみると、女子は「とても思う」「少し思う」が86.5%で、男子よりも高くなっています。

図5-1 高校生の結婚観

Q. あなたは、自分の将来について、次のように思いますか。

いつかは結婚がしたい。

■ とても思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答



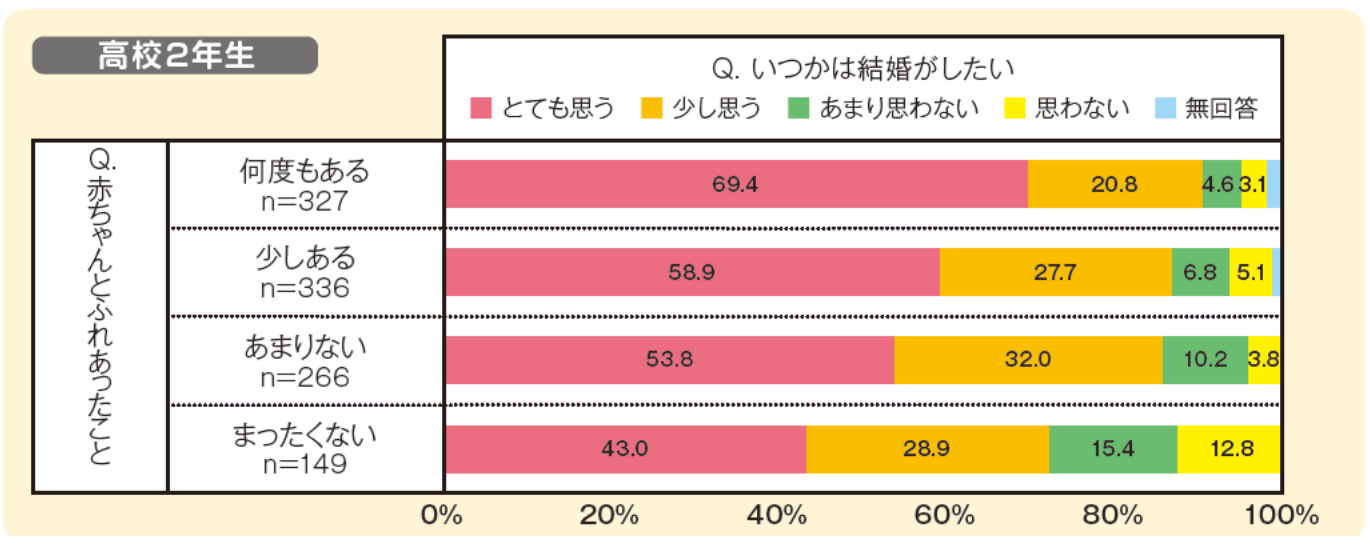
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●赤ちゃんとふれあった経験や小さい子どもと遊んであげた経験が多い高校生ほど、結婚したいと考える割合が高い。

高校生の赤ちゃんとふれあった経験と結婚観との関係を見ると、いつかは結婚がしたいと「とても思う」「少し思う」と答えた割合は、赤ちゃんとふれあったことが「何度もある」高校生では90.2%であるのに対し、「まったくない」高校生では71.9%と低くなっており、赤ちゃんとふれあった経験の多い高校生の方がいつかは結婚がしたいと考える割合が高くなっています。

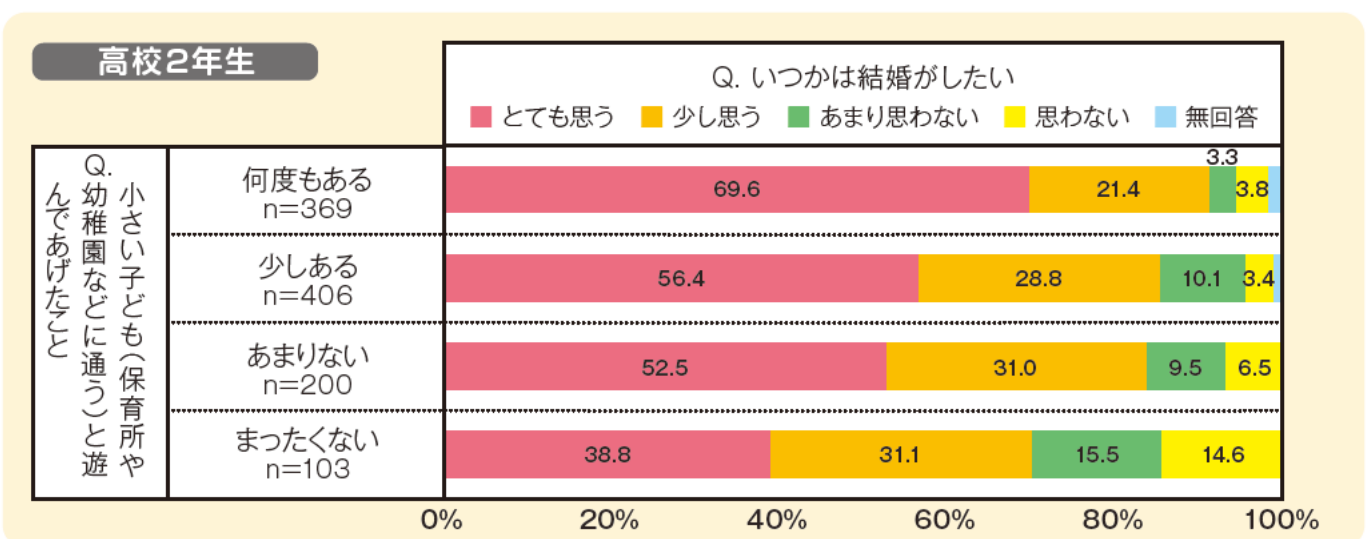
同様に、高校生の小さい子どもと遊んだ経験と結婚観の関係を見ると、いつかは結婚がしたいと「とても思う」「少し思う」と答えた割合は、小さい子どもと遊んであげたことが「何度もある」高校生では91.0%であるのに対し、「まったくない」高校生では69.9%と低くなっており、小さい子どもと遊んだ経験の多い高校生の方がいつかは結婚がしたいと考える割合が高くなっています。

図5-2 赤ちゃんとふれあった経験と結婚観との関係



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図5-3 小さい子どもと遊んだ経験と結婚観との関係



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

(2) 高校生の子どもを持つことに対する意識

●子どもがほしいと「思わない」または「あまり思わない」高校生が約16%。

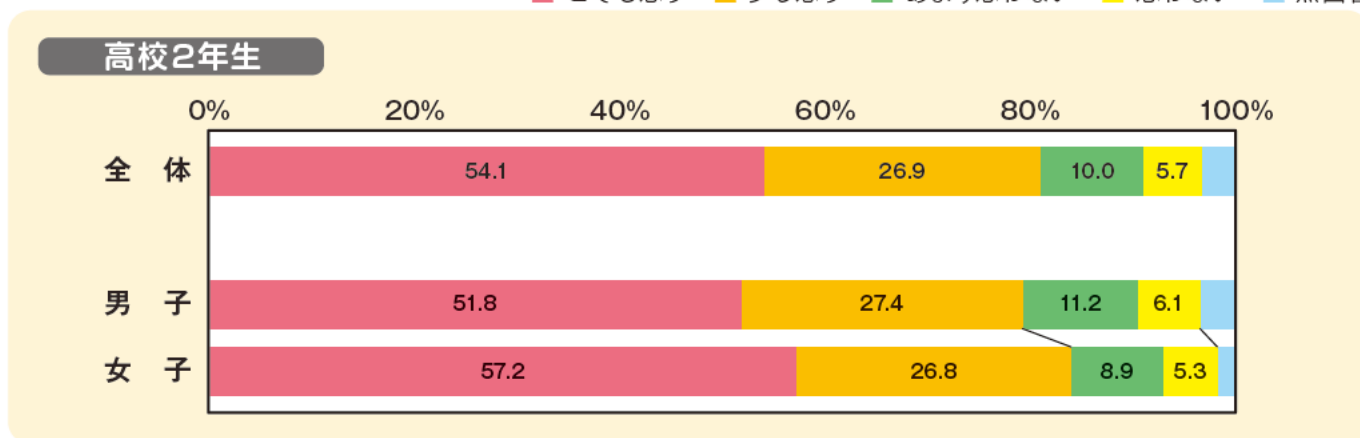
「いつかは子どもがほしいと思いますか」という質問に対して、「とても思う」「少し思う」と答えた高校生は81.0%で、「あまり思わない」「思わない」は15.7%となっています。また、男女別にみると、女子は「とても思う」「少し思う」が84.0%で、男子よりも高くなっています。

図5-4 高校生の子どもを持つことに対する意識

Q. あなたは、自分の将来について、次のように思いますか。

いつかは子どもがほしい。

■ とても思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ 無回答



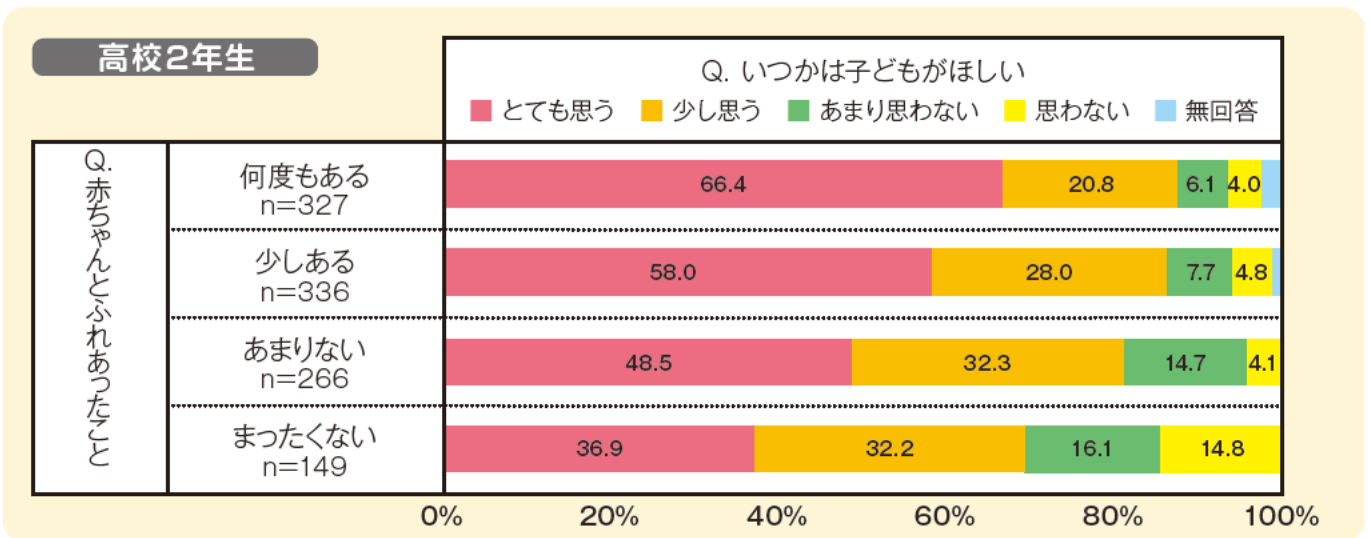
資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●赤ちゃんとふれあった経験や小さい子どもと遊んであげた経験が多い高校生ほど、子どもがほしいと考える割合が高い。

高校生の赤ちゃんとふれあった経験と子どもを持つことの意識との関係を見ると、いつかは子どもがほしいと「とても思う」「少し思う」と答えた割合は、赤ちゃんとふれあったことが「何度もある」高校生では87.2%であるのに対し、「まったくない」高校生では69.1%と低くなっており、赤ちゃんとふれあった経験の多い高校生の方がいつかは子どもがほしいと考える割合が高くなっています。

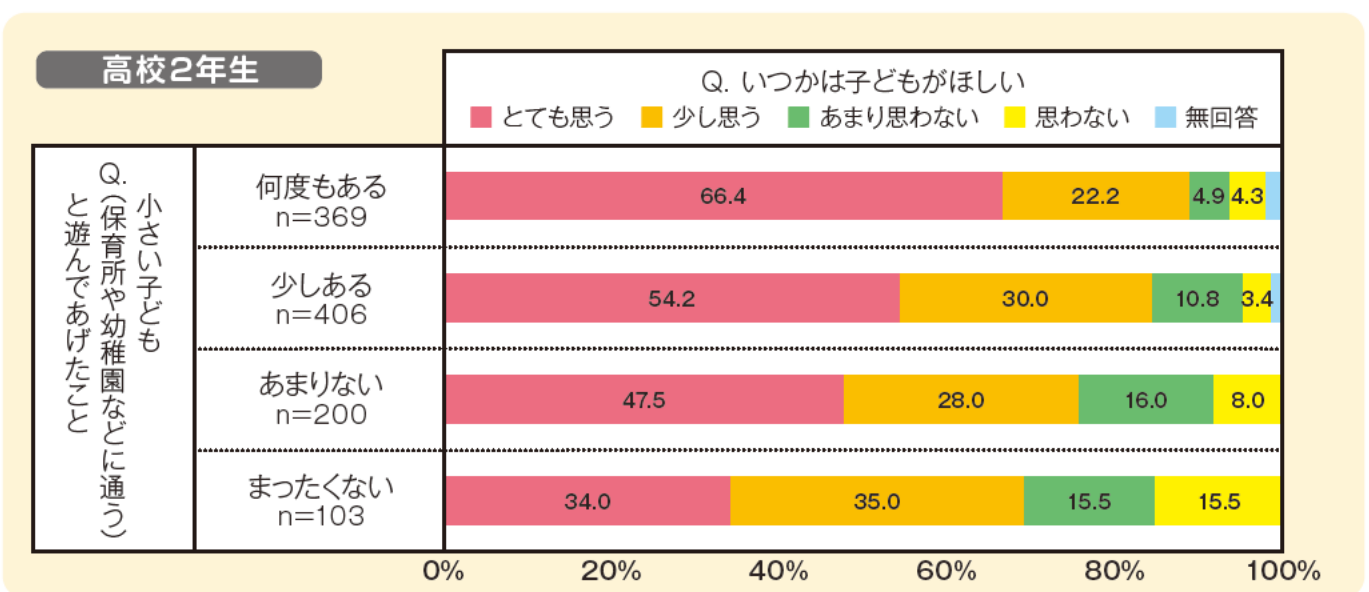
同様に、高校生の小さい子どもと遊んだことと子どもを持つことの意識との関係を見ると、いつかは子どもがほしいと「とても思う」「少し思う」と答えた割合は、小さい子どもと遊んだことが「何度もある」高校生では88.6%であるのに対し、「まったくない」高校生では69.0%と低くなっており、小さい子どもと遊んであげた経験の多い高校生の方がいつかは子どもがほしいと考える割合が高くなっています。

図5-5 赤ちゃんとふれあった経験と子どもを持つことの意識との関係



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図5-6 小さい子どもと遊んだ経験と子どもを持つことの意識との関係



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

(1) 少子化に対する危機感

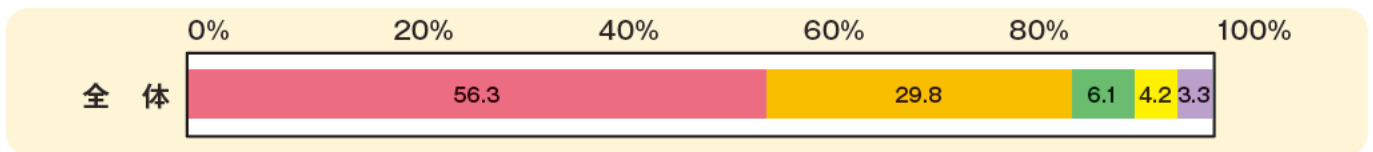
●約80%の県民が少子化の状況に危機感を感じている。

「少子化の状況に危機感を感じていますか」という質問に対して、「感じている」「どちらかといえば、感じている」と答えた県民は86.1%で、「どちらかといえば、感じていない」「感じていない」は10.3%となっています。

図5-7 少子化に対する危機感

Q. 子どもの数が減少していますが、こうした少子化の状況に危機感を感じていますか。

■ 感じている ■ どちらかといえば、感じている ■ どちらかといえば、感じていない
 ■ 感じていない ■ わからない ■ 無回答



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

(2) 未婚化・晩婚化の理由

●未婚化・晩婚化の理由は、「自由な生活を失いたくない」「収入が少ない」「出会いがない」が上位。

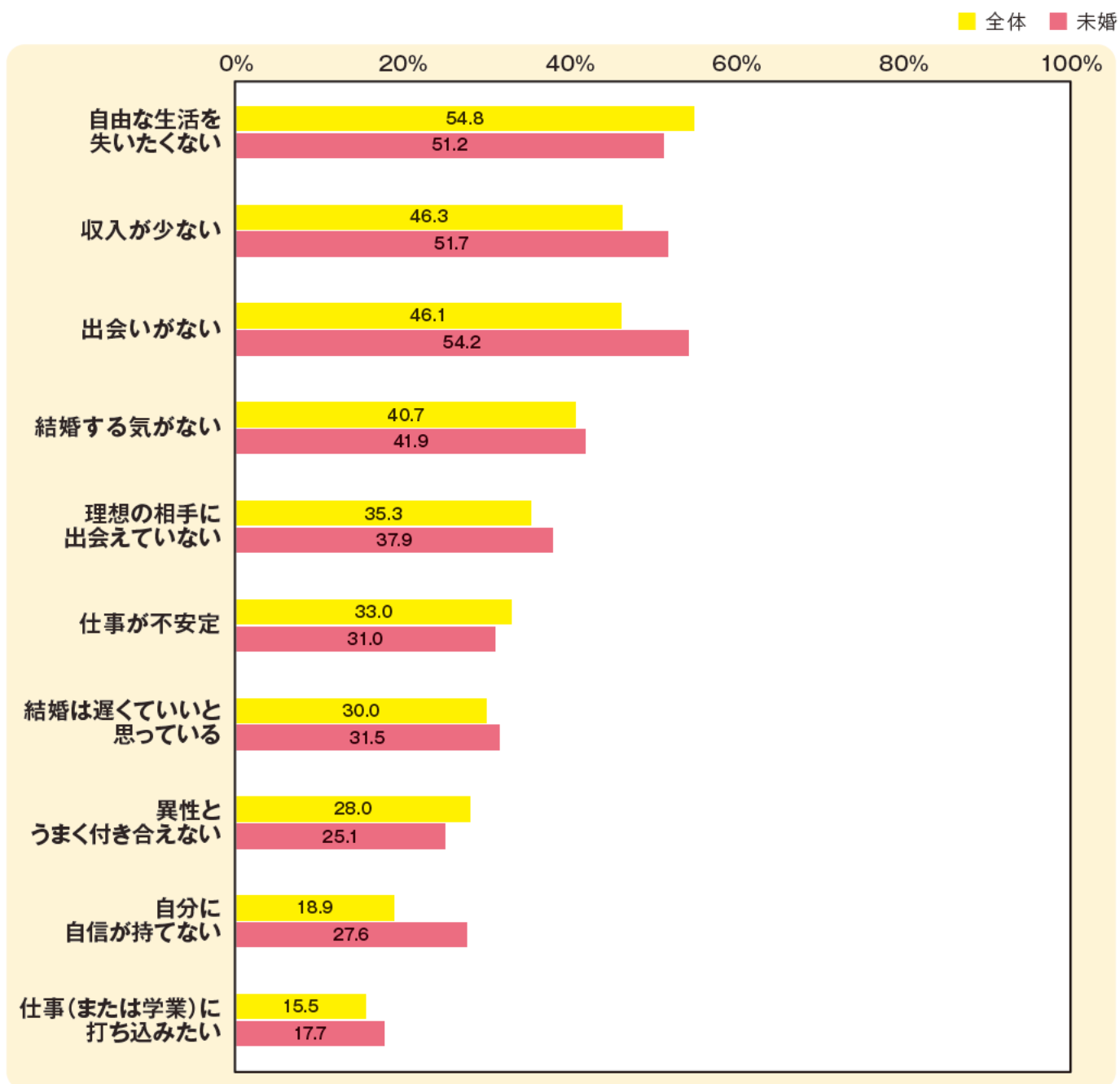
「未婚の人が結婚していない理由はどんなことだと思いますか」という質問に対して、全体では「自由な生活を失いたくない」が54.8%と最も高く、次いで「収入が少ない」、「出会いがない」の順となっています。

一方、未婚の人の回答では「出会いがない」が54.2%で最も高く、次いで「収入が少ない」、「自由な生活を失いたくない」の順となっています。

図5-8 未婚化・晩婚化の理由

Q. 日本では、「未婚」「晩婚」が増えてきています。

あなたは、未婚の人が結婚していない理由はどんなことだと思いますか。(複数回答・いくつでも)



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

注: 配偶関係の属性項目では、未婚のほか、既婚(配偶者有)、既婚(離別)、既婚(死別)がある。

(3) 男性の育児参画の考え方

●若い世代ほど「父親も育児に積極的に参加すべき」と考えている。

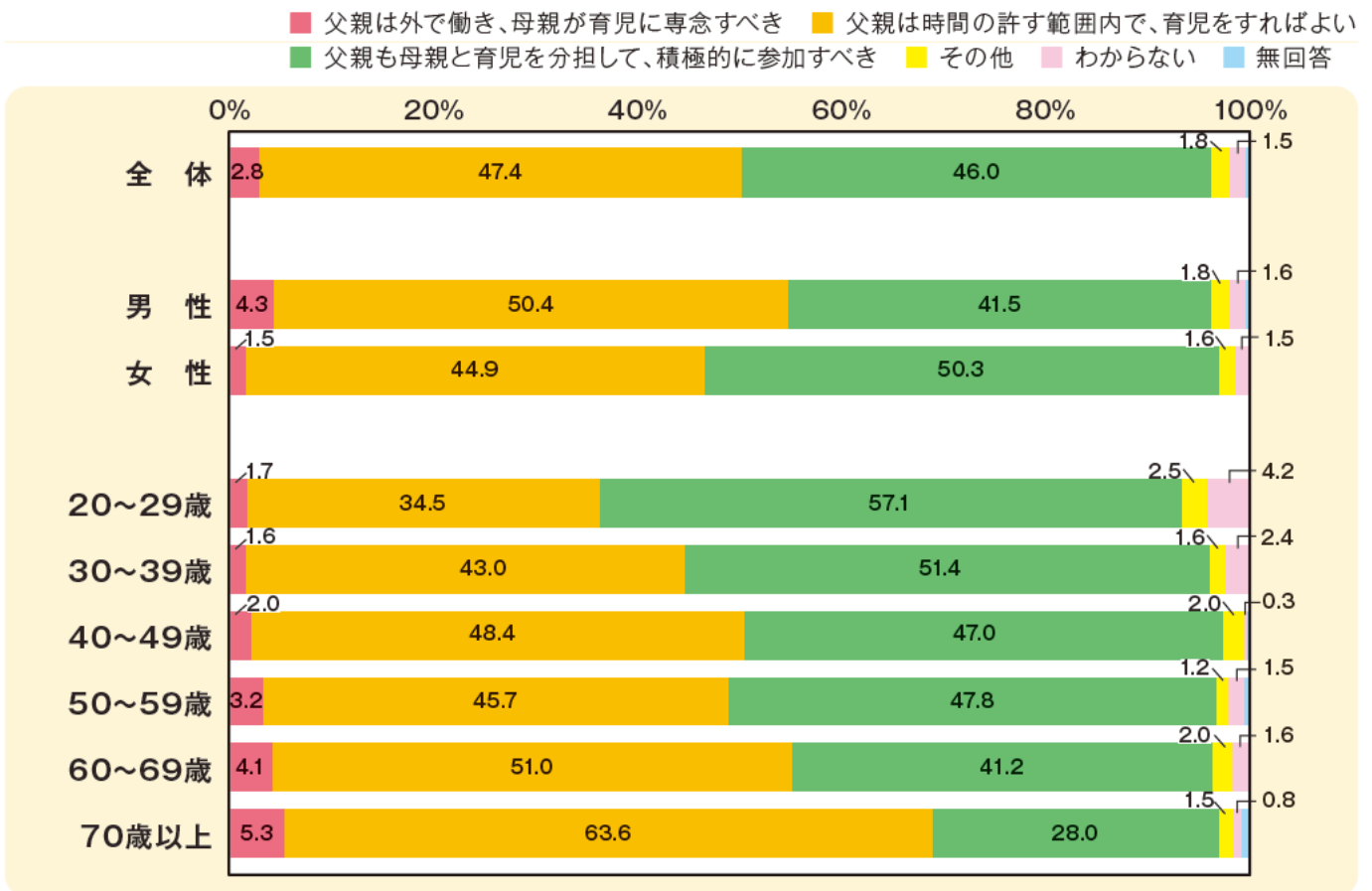
「父親が育児をすることについて、あなたはどのように思いますか」という質問に対して、「父親も母親と育児を分担して積極的に参加すべき」と答えた県民の割合は46.0%となっています。

さらに年齢別でみると、「父親も母親と育児を分担して積極的に参加すべき」と答えた割合は、20~29歳で57.1%となっており、若い世代ほど父親が積極的に育児に参加すべきと考える傾向が見られます。

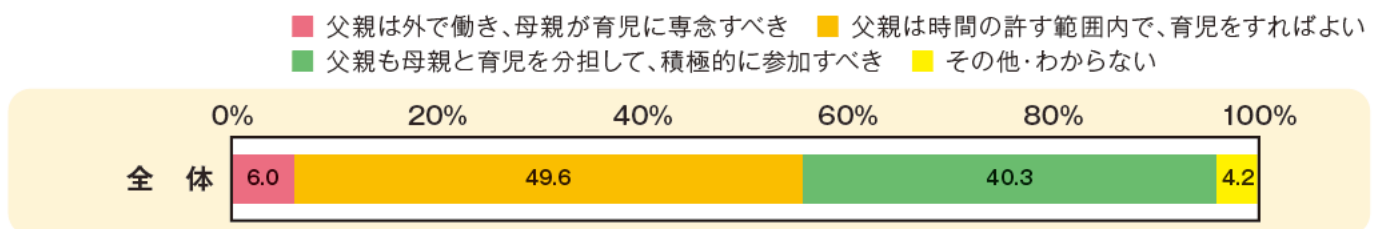
なお、同様の質問をした第3回みえ県民意識調査(平成26年1月)の結果より、「積極的に参加すべき」と答えた県民の割合が5.7ポイント高くなっています。

図5-9 男性の育児参画についての考え方

Q. 父親が育児をすることについて、あなたはどのように思いますか。



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」



資料:第3回みえ県民意識調査(平成26年1月)

(4) 祖父母による育児・家事の手助け

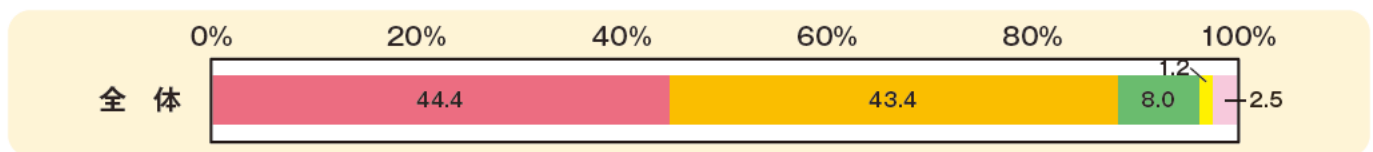
●約90%が祖父母による育児・家事の手助けが望ましいと感じている。

「子どもからみた祖父母が、育児や家事の手助けをすることは望ましいと思いますか」という質問に対して、「とてもそう思う」「ややそう思う」と答えた県民の割合は87.8%となっています。

図5-10 祖父母による育児・家事の手助け

Q. 子どもからみた祖父母が、育児や家事の手助けをすることは望ましいと思いますか。

■ とてもそう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない
■ まったくそう思わない ■ わからない



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

(5) 理想とする家族の住まい方

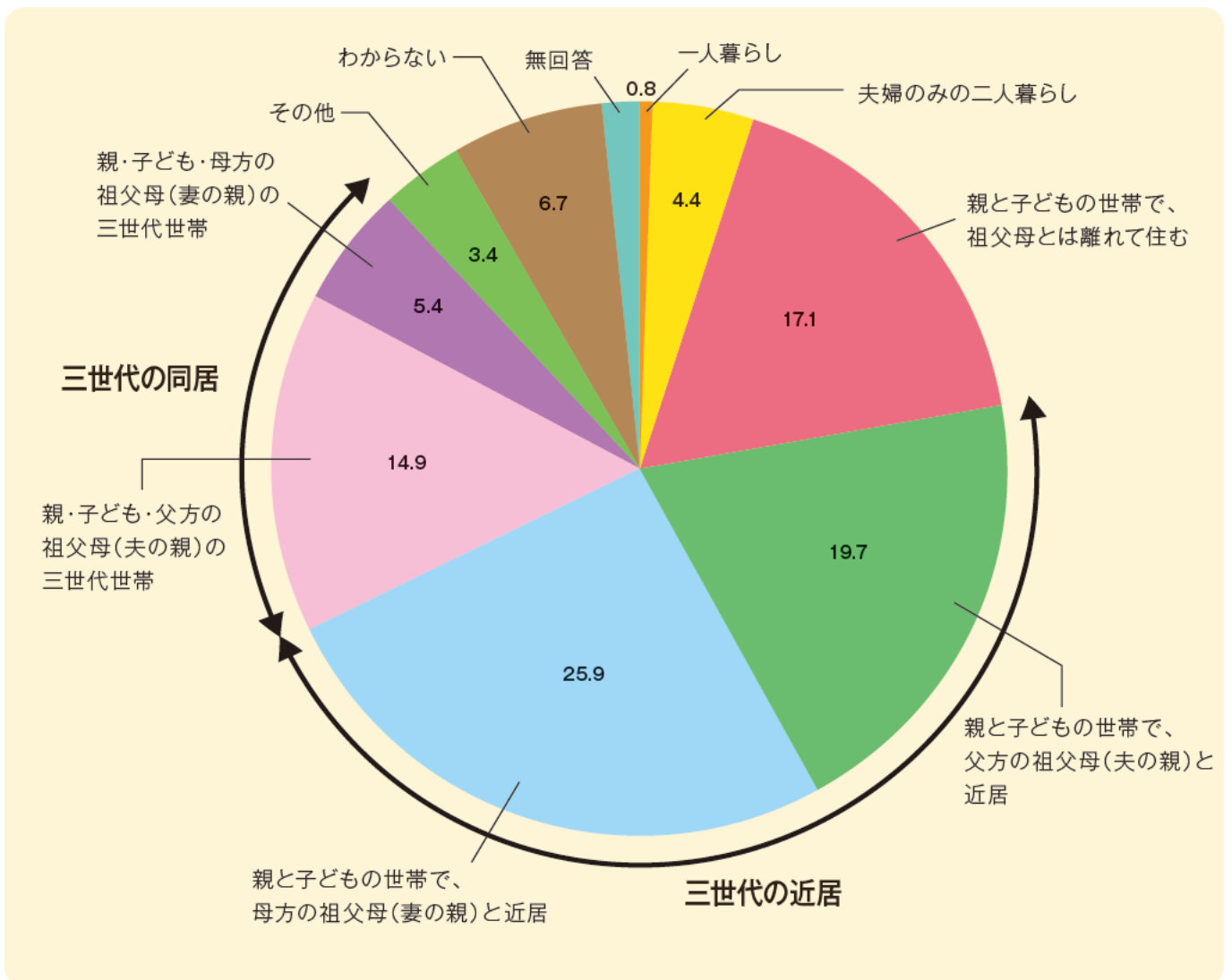
●「母方の祖父母との近居」が最も多く、3人に2人は三世代の同居や近居を希望。

「理想の家族の住まい方とはどのようなものですか」という質問に対して、「母方の祖父母と近居」を希望する割合が25.9%で最も高く、次いで「父方の祖父母と近居」が19.7%などとなっています。祖父母との同居を合わせた三世代の同居や近居を希望する割合は65.9%となっています。

図5-11 理想の住まい方

Q. あなたにとって、理想の家族の住まい方とは、どのようなものですか。

(%)



資料:「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」